

蛙	1 井底の【ア】
愛嬌 愛敬	2 男は度胸女は【アイキョウ】
ヒ首 合口	3 【アイクチ】に鏢
阿吽	4 【アウン】の呼吸
藜	5 【アカザ】の杖をつく
緊唇	6 【アクチ】も切れぬ
欠伸 欠	7 長口上は【アクビ】の種
悪木	8 熱しても【アクボク】の陰に憩わず
阿衡	9 【アコウ】の佐
阿漕	10 【アコギ】が浦に引く網
糾 糺	11 禍福は【アザナ】える縄の如し
薊	12 【アザミ】の花も一盛り
阿闍梨	13 【アジャリ】死して事欠けず
婀娜	14 【アダ】な素足も貧から起こる
仇野 化野 徒野	15 【アダシノ】の露、鳥辺野の煙
遏雲	16 【アツウン】の曲
詭	17 河童に塩を【アツラ】える
痘痕	18 【アバタ】も靨
錠	19 【アブミ】踏ん張る
霤	20 泰山の【アマダレ】は石を穿つ
黄牛	21 【アメウシ】に腹突かれる
天地	22 【アメツチ】を袋に縫う
阿蒙	23 呉下の【アモウ】
菖蒲	24 何れ【アヤメ】か杜若
鮑	25 磯の【アワビ】の片思い

晏嬰	26	【アンエイ】の狐裘
鮫鱈	27	【アンコウ】の待ち食い
彝 彝	28	【イ】を乗る
涇	29	涇（けい）は【イ】を以て濁る
帷幄	30	【イアク】の臣
委蛇	31	河は【イイ】を以ての故に能く遠し
異域	32	【イイキ】の鬼と為る
飯粒	33	【イイボ】してもつ釣る
家苞	34	財宝は地獄の【イエツト】
雖	35	中たらずと【イエド】も遠からず
笊籬	36	【イカキ】俯けたような
毬栗	37	【イガグリ】も内から割れる
衣錦	38	【イキン】の栄
兔唇 兔唇 兔唇 欠唇	39	【イグチ】も靨
猪頸 猪頸 猪首	40	兜を【イクビ】に着る
生簀	41	【イケス】の鯉
遺賢	42	野に【イケン】なし
韋弦	43	【イゲン】の佩
懿公	44	【イコウ】鶴を好む
躄 膝行	45	【イザ】っても三文
諍	46	【イサカ】い果てての契り
砂 沙 砂子 沙子	47	【イサゴ】に黄金、泥に蓮
五十集	48	博奕博勞【イサバ】
鶡	49	【イスカ】の嘴
已成	50	吏たるに習わずば【イセイ】の事を視よ

葦巢	51	【イツウ】の悔い
韋駄天 韋陀天	52	【イダテン】走り
一翳	53	【イチエイ】眼があれば空華乱墜す
一鶚	54	鷲鳥百を累ぬるも【イチガク】に如かず
一毫	55	聞く時は九鼎より重く、見て後は【イチゴウ】より軽し
逸物	56	【イチモツ】の鷹も放さねば捕らず
一蕪	57	一薰【イチユウ】十年なお臭あり
一埒	58	【イチラツ】が済む
一饜	59	【イチレン】の肉を嘗めて一鑊（いっかく）の味を知る
佚 逸	60	【イツ】を以て労を待つ
溢	61	江河の【イツ】は三日に過ぎず
一擲 一擲	62	一棒一条痕【イッカク】一掌血
一竿	63	【イッカン】の竹、・裾に換えず
一饋	64	【イッキ】に十たび起つ
一簣	65	九仞の功を【イッキ】に虧く
一簣	66	【イッキ】の功
一簣	67	【イッキ】を以て江河を障ぐ
一揆	68	【イッキ】の寄り合い
一掬	69	【イッキク】の涙
一鷄	70	月に【イッケイ】を攘み以て来年を待つ
一狐裘	71	【イッコキュウ】三十年
一轂	72	三十輻【イッコク】を共にす
一粲	73	【イッサン】を博す
一晨	74	槿花【イッシン】の栄え
一簞 一簞	75	【イッタン】の食、一瓢の飲

一籌	76	【イッチュウ】を輸す
一榻	77	【イットウ】の外、皆他人の家なり
溢美	78	【イツビ】の言
一臂	79	【イッピ】の労
一瓢	80	一簞の食、【イッピョウ】の飲
一顰 一嘖	81	明主は【イッピン】一笑を愛しむ
一瓶	82	一種【イッペイ】は亭主の課役
鷓蚌	83	【イツボウ】の争い
鷓蚌	84	【イツボウ】相挿む
一抔	85	【イッポウ】の土未だ乾かず、六尺の孤安にか在る
逸民 佚民	86	太平の【イツミン】
乙夜	87	【イツヤ】の覧
夷狄	88	【イテキ】だも君有り
遑	89	枚挙に【イトマ】がない
猗頓	90	【イトン】の富
鯨	91	潮先の【イナ】で飛び上がっている
嘶	92	牛が【イナナ】き馬が吼える
豕	93	遼東の【イノコ】
倚馬	94	【イバ】の才
帷薄	95	【イハク】修まらず
帷幕	96	【イバク】修まらず
帷幕	97	針縷に順う者は【イバク】を成す
衣鉢	98	【イハツ】を継ぐ
渭浜	99	【イヒン】の器
韋編	100	【イヘン】三度絶つ

移木	101 【イボク】の信
倚門	102 【イモン】の望
苟	103 行い、【イヤシク】も合わず
蕘	104 【イラカ】破れて霧不断の香を焚く
伊蘭	105 【イラン】の林に交われども赤梅檀の香は失せず
違乱	106 【イラン】は未練の相
倚閭	107 【イリョ】の情
飲河	108 【インカ】の願い
殷鑑	109 【インカン】遠からず
慇懃	110 奴は婢を見て【インギン】
慇懃	111 【インギン】を通じる
印綬	112 【インジュ】を解く
員子 銀子	113 【インツウ】沢山
倦	114 学びて厭わず教えて【ウ】まず
盂	115 【ウ】方なれば水方なり
竽	116 【ウ】を好むに瑟を鼓す
績	117 徒居しょうより膝麻【ウ】め
盂	118 君は【ウ】の如く、民は水の如し
外郎	119 狐憑きに【ウイロウ】を飲ます
烏雲	120 【ウウン】の陣
烏鳶	121 【ウエン】の卵毀たざれば而る後に鳳凰集まる
魚鱗	122 雑魚も【ウオヒレ】
有涯	123 【ウガイ】は秋の月
有卦	124 【ウケ】に入る
于公	125 【ウコウ】門閭を高大にす

鬱金	126	【ウコン】の鉢巻き
蛆虫	127	【ウジムシ】も一代
烏鵲	128	【ウジャク】の智
烏集	129	【ウシュウ】の交わり
羽觴	130	【ウシヨウ】を飛ばす
鶉	131	田鼠化して【ウズラ】となる
鶉	132	切なくなれば【ウズラ】も木へ登る
鶯	133	【ウソ】の雄は晴れを呼び雌は雨を呼ぶ
有待	134	【ウダイ】の身
稅	135	【ウダツ】が上がらぬ
内外	136	【ウチト】の典
烏鳥	137	【ウチョウ】の私情
迂直	138	【ウチョク】の計
梁	139	【ウツバリ】の塵を動かす
梁	140	【ウツバリ】の燕
梁	141	【ウツバリ】の埃落つ
俯	142	菩薩は実が入れば【ウツブ】く
台 閣	143	九層の【ウテナ】は累土より起こる
腕捲	144	高名の【ウデマク】り
烏頭	145	【ウトウ】白くして馬角を生ず
饅飩	146	夏の昼【ウドン】
末木	147	本木に勝る【ウラキ】無し
瓜実 瓜核	148	一【ウリザネ】に二丸顔
潤目	149	【ウルメ】と博打は一返し
烏鷺	150	【ウロ】の争い

有漏	151 【ウロ】の身
胡乱	152 【ウロン】の沙汰
雲霓	153 【ウンゲイ】の望み
運上	154 累（かさね）の面から【ウンジョウ】を取る
蘊蓄 蒞蓄	155 【ウンチク】を傾ける
雲夢	156 【ウンボウ】八九を呑む
榎	157 【エ】の実はならばなれ、木は椋の木
穎 穎	158 【エイ】を脱す
纓	159 滄浪の水清まば以て吾が【エイ】を濯う可し
纓	160 楚囚其の冠を【エイ】す
翳	161 金屑貴しと雖も眼に入つて【エイ】となる
嬰兒	162 【エイジ】の貝を以て巨海を測る
盈丈	163 【エイジョウ】の尾を見て咫尺の軀にあらざるを知る
詠雪	164 【エイセツ】の才
盈満	165 【エイマン】の咎
奕棋 奕碁	166 君を視ること【エキキ】に如かず
依怙	167 天道に【エコ】なし
狗母魚 鱒	168 鯛なくば【エソ】
粵犬	169 【エッケン】雪に吠ゆ
越俎	170 【エツソ】の罪
胞衣	171 生まるる子の【エナ】に親の定紋
縁	172 蝨紐の【エニシ】
犬子 犬兒 狗	173 【エノコ】の火を踏みたるよう
箴	174 【エビラ】を叩く
栄耀	175 正直貧乏横着【エヨウ】

栄耀	176	【エヨウ】の餅の皮
轅	177	【エン】を北にして楚に適く
鴛鴦	178	【エンオウ】の契り
鴛鴦	179	鴨を打って【エンオウ】を驚かす
閻王	180	鼻中の白毛は【エンオウ】の使い
煙霞 烟霞	181	泉石【エンカ】の病
轅下	182	【エンカ】の駒
燕雁 燕鴈	183	【エンガン】代わって飛ぶ
冤仇 冤仇	184	賞は【エンキユウ】を論ぜず、罰は骨肉を論ぜず
猿猴	185	【エンコウ】月を取る
円鑿	186	方柄（ほうぜい）を持って【エンサク】に内れんと欲す
鉛槧	187	【エンザン】に付す
鉛槧	188	書を読みて聖賢を見ざれば、【エンザン】の傭と為る
遠山	189	【エンザン】の眉
煙硝 烟硝 焰硝 焰硝 塩硝	190	火打ち箱に【エンショウ】入れて昼寝する
偃鼠 鯁鼠 鯁鼠	191	【エンソ】河に飲むも満腹に過ぎず
燕台	192	【エンダイ】の召し
淵中 測中	193	【エンチュウ】の魚を知る者は不祥なり
燕趙	194	【エンチョウ】悲歌の士
鉛刀	195	【エントウ】の一割
豌豆	196	【エンドウ】は日陰でもはじける
猿臂	197	【エンピ】を伸ばす
猿臂	198	【エンピ】の勢い
閻浮	199	明日は【エンブ】の塵ともならばなれ
閻浮提	200	【エンブダイ】第一



閻魔	201 借りる時の地藏顔濟す時の【エンマ】顔
閻魔	202 用ある時の地藏顔、用なき時の【エンマ】顔
轅門	203 【エンモン】に降る
燕翼	204 【エンヨク】の謀
爰立	205 【エンリツ】の命
追風	206 【オイテ】に帆を上げる
枋	207 【オウゴ】屋の火事で棒焼く
枋	208 【オウゴ】を折る
王侯将相	209 【オウコウショウショウ】、寧んぞ種あらんや
鶯舌 鶯舌	210 花中の【オウゼツ】は花ならずして芳し
横草	211 【オウソウ】の功
鸚鵡	212 【オウム】能く言えども飛鳥を離れず
甕裏 甕裡	213 ・鶏【オウリ】の天
大龕灯 大強盜	214 貧乏寺の【オオガンドウ】
大鉦 大舂	215 【オオナタ】を振るう
大幣 大帛	216 【オオヌサ】の引く手あまた
大鋸屑	217 【オガクズ】も言えは言う
熾火 燠火	218 初手はちよろちよろ中かつか末は【オキビ】
屋烏	219 愛【オクウ】に及ぶ
暖気 噫気 噯	220 【オクビ】にも出さぬ
屋梁	221 落月【オクリョウ】の想い
屋漏	222 【オクロウ】に愧じず
烏澁 尾籠 痴	223 【オコ】の高名せぬに如かず
臙 虎魚	224 山の神に【オコゼ】
瘡 疥	225 【オコリ】が落ちる

煽	226 豚も【オダ】でりゃ木に登る
落人	227 【オチウド】は薄の穂にも怖じる
頤	228 【オトガイ】の雫
頤	229 【オトガイ】を解く
思	230 米の飯より【オボ】し召し
未通女	231 【オボコ】の臍
面瘡	232 思い【オモクサ】思われ面皰
穩座	233 【オンザ】の初物
飲食	234 仏も百味の【オンジキ】
温石	235 夏の【オンジャク】と傾城の心とは冷たい
隱亡	236 【オンボウ】も焼き賃
温良恭儉讓	237 【オンリョウキョウケンジョウ】、以て之を得たり
舁	238 駕籠【カ】き駕籠に乗らず
搗	239 竿竹で星を【カ】つ
嗷	240 空き家で声【カ】らす
譎訛	241 亥豕の【カ】
呵	242 秃筆を【カ】する
駕	243 千里【ガ】を命ず
駕	244 【ガ】を枉ぐ
隗	245 【カイ】より始めよ
擢	246 櫓を押して【カイ】は持たれぬ
階	247 【カイ】を釈てて天に登る
槐安	248 【カイアン】の夢
艾榮	249 蘭摧玉折を為すも蕭敷【ガイエイ】をは作さじ
凱歌	250 【ガイカ】を奏する

恢恢	251 天網【カイカイ】疎にして漏らさず
蓋棺 蓋棺	252 【ガイカン】事定まる
甲斐絹 海気 海黄	253 表木綿の裏【カイキ】
会稽 会稽	254 【カイケイ】の恥
海硯	255 山筆【カイケン】にも及び難し
解語	256 【カイゴ】の花
開闔	257 五寸の鍵【カイコウ】を制す
骸骨	258 【ガイコツ】を乞う
睚眦 睚眦	259 【ガイサイ】の怨み
晦朔	260 朝菌は【カイサク】を知らず
亥豕	261 【ガイシ】の誤り
膾炙	262 人口に【カイシャ】す
薤上	263 【カイジョウ】の露
灰燼	264 【カイジン】に帰す
回雪 廻雪	265 【カイセツ】の袖
階前	266 【カイゼン】は則ち万里なり
懈惰	267 禍いは【カイダ】に生ず
咳唾	268 【ガイダ】珠を成す
介冑	269 【カイチュウ】蟻蝨を生ず
豈弟	270 【ガイテイ】の君子は民の父母なり
海棠	271 【カイドウ】睡り未だ足らず
海棠	272 【カイドウ】の雨を帯びたる風情
快犢	273 【カイトク】車を破る
腕	274 雨垂れ【カイナ】を弾く
凱風	275 【ガイフウ】南よりして彼の棘心を吹く

潰癩	276 千鈞の弩を以て【カイヨウ】を射る
回瀾 廻瀾	277 【カイルン】を既倒に反す
怪力乱神	278 【カイリョクランシン】を語らず
魁壘	279 【カイルイ】の士
回祿 回祿	280 【カイロク】の災い
嗔 嬖	281 念者嫉妬は【カカ】以上
嬖 嗔	282 【カカア】天下に空っ風
河海	283 【カカイ】は細流を扱ばず
柯会	284 【カカイ】の盟
瓜葛	285 【カカツ】の親
河漢	286 【カカン】の言
蝸牛	287 【カギユウ】角上の争い
蝸牛	288 【カギユウ】の廬
火牛	289 【カギユウ】の計
膈	290 【カク】、脹満医者いらす
貉 貉	291 一丘の【カク】
霍	292 酒を漿とし肉を【カク】とす
佳句	293 夢に【カク】を得
慙	294 黙に過言無く【カク】に過事無し
鷓鴣	295 【ガクキュウ】大鵬を笑う
鶴脛	296 【カクケイ】長しと雖もこれを断たばすなわち悲しむ
客星	297 【カクセイ】帝座を犯す
鶴鳴	298 【カクメイ】の士
霍乱 瘧乱	299 鬼の【カクラン】
霍乱 瘧乱	300 猿の【カクラン】

霍乱 瘧乱	301 貧乏な鳥は盆に【カクラン】をする
獲麟	302 病【カクリン】に及ぶ
蜉蝣 蜻蛉	303 仙人の千年、【カゲロウ】の一時
嘉肴	304 【カコウ】有りと雖も食らわずんばその旨きを知らず
鵲	305 【カササギ】の橋
和氏	306 【カシ】の璧
花時 花時	307 緑陰幽草、【カジ】に勝る
餓鴉	308 【ガシ】の叫び
呵責	309 【カシヤク】の鬼
華胥	310 【カシヨ】の国に遊ぶ
華燭	311 【カシヨク】の典
稼穡	312 一度食する毎に便ち【カシヨク】の艱難を念う
鏃	313 子は【カスガイ】
被衣	314 【カズキ】着た御居処はつめられず
河清	315 百年【カセイ】を俟つ
苛政	316 【カセイ】は虎よりも猛し
家賊	317 【カゾク】防ぎ難し
方人	318 老いの【カタウド】
火宅	319 三界の【カタク】、四衢の露地
忝 辱	320 【カタジケナ】さに涙こぼるる
筐 筐	321 【カタミ】の水
鵝鳥 鶩鳥	322 金の卵も生む【ガチョウ】を殺すな
餓	323 【カツ】え坊主が齋に会ったよう
褐	324 【カツ】を被り玉を懐く
轄	325 【カツ】を投ず

革靴	326 【カッカ】を枉げる
瞎馬	327 盲人【カツバ】に騎りて夜半に深池に臨む
刮目	328 【カツモク】して相待つ
過庭	329 【カテイ】の訓え
瓜田	330 【カデン】に履を納れず
臥榻	331 【ガトウ】の側他人の鼾睡を容れず
鉄漿	332 【カネ】を付ける
黴	333 【カビ】が生える
蛾眉 娥眉	334 糸に非ず、竹に非ず、【ガビ】に非ず
瓦缶	335 心曠ければ則ち万鍾も【ガフ】の如し
蕪菁 蕪 菁	336 菜種から【カブラ】まで
頭	337 【カブリ】を振る
画餅	338 【ガベイ】に帰す
夸父	339 【カホ】日を追う
蝦蟇 蝦蟆 蟄 蝦 蟆	340 【ガマ】は恒に鳴けども、人は聴かず
框 櫥	341 家に無くてはならぬものは上がり【ガマチ】と女房
竈 竈 爨	342 【カマド】を一つにする
竈 竈 爨	343 【カマド】を分ける
紙漉 紙抄	344 【カミス】きの手鼻
榧	345 木の実【カヤ】の実食べても
茅 萱 茆	346 【カヤ】にも心置く
瑕瑜	347 【カユ】相揜（おお）わず
絡 紮	348 十把一【カラ】げ
迦陵	349 【カリヨウ】頻伽の声
河梁	350 【カリヨウ】の別れ

鯉 王余魚	351 夏座敷と【カレイ】は縁側がよい
罅漏	352 【カノウ】を補苴し、幽眇を張皇す
土器 瓦	353 【カワラケ】の欠けも用あり
姦 奸	354 【カン】無きを以て吠えざるの狗を畜うべからず
艱	355 桂玉の【カン】
姦 奸	356 偏聴【カン】を生ず
冠	357 【カン】を掛く
癩	358 養子児の【カン】の出たよう
宦	359 官は【カン】の成るに怠る
款	360 【カン】を通ず
干戈	361 【カンカ】に訴える
鰥寡	362 国土を治むる賢皇は【カンカ】を侮ること勿れ
干戈	363 弓矢を包み【カンカ】を袋にす
干戈	364 【カンカ】を倒載す
頷下	365 驪竜【ガンカ】の珠
眼窩	366 【ガンカ】に入る
巖下	367 【ガンカ】の電
冠蓋 冠蓋	368 【カンガイ】相望む
侃侃	369 下大夫と言うときは、【カンカン】如たり、上大夫と言うときは、闇闇如（ぎんぎんじょ）たり
漢宮	370 【カンキュウ】の幻
緩頰 緩頰	371 【カンキョウ】を煩わす
看經	372 汁食い【カンキン】唐辛子熱湯順礼長左衛門
寒暄	373 【カンケン】を叙す
諫鼓 諫鼓	374 【カンコ】苔深くして鳥驚かず
寒垢離	375 【カンゴリ】屋が商売は冷たい

桓山	376 【カンザン】の四鳥
諫子 諫子	377 家に【カンシ】なければ其の家必ず滅ぶ
甘餌	378 魚のかかるは【カンジ】に由る
含沙	379 【ガンシャ】、影を射る
癩癩	380 【カンシャク】持ちの事破り
関雎	381 【カンシヨ】の化
癩性 癩症	382 【カンシヨウ】病みの汚いもの知らず
寒松	383 【カンシヨウ】千丈の節
干城	384 二卵を以て【カンジョウ】の将を棄つ
竿上	385 阮咸は【カンジョウ】の槿を手向く
巖牆 巖墻	386 命を知る者は【ガンシヨウ】の下に立たず
韓信	387 【カンシン】の股くぐり
奸人 姦人	388 【カンジン】の前には機巧を言うことなかれ
鼾睡	389 臥榻の側他人の【カンスイ】を容れず
寒蟬 寒蟬	390 【カンセン】枯木を抱く
渙然	391 【カンゼン】氷積する
間然	392 【カンゼン】する無し
邯鄲	393 【カントアン】の夢
邯鄲	394 【カントアン】の歩み
邯鄲	395 魯酒薄くして【カントアン】困まる
卷帙	396 【カンチツ】綻ぶ
干天 旱天	397 【カンテン】の慈雨
竿頭	398 百尺【カントウ】一步を進む
甘棠	399 【カントウ】の愛
強盜	400 博奕博勞掬摸【ガンドウ】



駢突	401 鞮（き）を以て【カントツ】を御す
鉋	402 鑿に【カンナ】の働きは無し
艱難	403 【カンナン】汝を玉にす
汗馬	404 【カンバ】の労
顔	405 【カンバセ】を犯す
旱魃 干魃	406 千日の【カンバツ】に一日の洪水
旱魃 干魃	407 【カンバツ】に飢饉なし
管豹	408 【カンピョウ】の一斑
管鮑	409 【カンポウ】の交わり
寛猛	410 【カンモウ】相濟う
咸陽宮	411 【カンヨウキュウ】も滅ぶ時は滅ぶ
冠履	412 【カンリ】を貴んで頭足を忘る
悍虜	413 嚴家には【カンリョ】無し
韓盧	414 【カンロ】を馳せて蹇兔を逐う
驥	415 竜に攀じ【キ】に附く
驥	416 【キ】、塩車に服す
驥	417 道遠くして【キ】を知る
枳	418 江南の橘江北に移されて【キ】となる
寄	419 分憂の【キ】
驥	420 【キ】をして鼠を捕らしむ
誼	421 其の【ギ】を正し其の利を謀らず
奇貨	422 【キカ】居くべし
棄灰	423 【キカイ】の刑
犄角	424 【キカク】の勢い
龜鶴	425 【キカク】の思い

鬼瞰	426	【キカン】の禍
帰雁 帰鴈	427	【キガン】友を偲ぶ
騏驎	428	【キキ】の踟躕するは驚馬の安歩に如かず
騏驎	429	人中の【キキ】
忌諱	430	【キキ】に触れる
雉 雉子	431	焼け野の【キギス】夜の鶴
箕裘	432	【キキュウ】の業
枳棘	433	【キキョク】は鸞鳳の棲む所に非ず
飢饉 饑饉	434	旱魃に【キキン】なし
規矩	435	【キク】は方円の至りなり、聖人は人倫の至りなり
崎嶇	436	人情は反復し、世路は【キク】たり
木耳	437	【キクラゲ】の看板
蟻穴	438	大山も【ギケツ】より崩る
魏闕	439	身は江海の上に在り、心は【ギケツ】の下に居る
鬼臉	440	【キケン】を被って稚児を威す
旗鼓	441	【キコ】相当たる
肌骨	442	涙【キコツ】を絞る
樵夫 樵 藁	443	山の事は【キコリ】に聞け
葵菜	444	蓼虫【キサイ】に従るを知らず
箕山	445	【キザン】の志
杞梓	446	【キシ】連抱にして数尺の朽あるも良工は棄てず
蟻蝨 蟻虱	447	介冑【ギシツ】を生ず
箕帚 箕箒	448	【キシユウ】の妾
箕帚 箕箒	449	【キシユウ】を執る
毀傷	450	身体髪膚之を父母に受く、敢えて【キショウ】せざるは孝の始めなり

起請	451 女郎の千枚【ギシヨウ】
鬼籍	452 【キセキ】に入る
羈絆 羈絆	453 【キセツ】の僕
驥足	454 【キソク】を展ばす
危殆	455 【キタイ】に瀕する
騎竹	456 【キチク】の交わり
機杼	457 一家を【キチヨ】す
羈鳥	458 【キチヨウ】旧林を恋い池魚故淵を思う
鋸 鋒 鋸	459 【キッサキ】を折る
橘中	460 【キツチュウ】の楽しみ
毬杖 毬打	461 腕無しの振り【ギツチヨウ】
啄木鳥	462 【キツツキ】の子は卵から頷く
気袿	463 【キヅマ】を合わせる
橘裏	464 【キツリ】に山川を峙つ
詭道	465 兵は【キドウ】なり
奇特	466 正法に【キドク】なし
半銭 寸半	467 文字【キナカ】盗まぬ人
杵柄	468 昔とった【キネヅカ】
耆婆	469 【ギバ】、扁鵲でもいかぬ
黄檗 黄蘗 檗 蘗	470 【キハダ】を嘗めた啞（おし）のよう
驥尾	471 【キビ】に付す
季布	472 【キフ】の一諾
忌服	473 七歳未満【キブク】なし
記問	474 【キモン】の学
伽羅	475 【キアラ】の仏に箔を置く

笈	476 【キュウ】を負う
灸	477 土に【キュウ】
灸	478 飛脚に三里の【キュウ】
裘	479 【キュウ】を反して薪を負う
裘	480 大寒にして後【キュウ】を求む
蚯蚓	481 真竜も勢いを失えば【キュウイン】に同じ
旧柯	482 【キュウカ】花を生ぜず
久闊 久濶	483 【キュウカツ】を叙する
裘葛	484 【キュウカツ】を換う
旧歛	485 【キュウカン】を暖める
牛驥	486 【ギウキ】、阜を同じくす
休咎	487 善惡に従いて【キュウキュウ】あり
九牛	488 【キュウギウ】の一毛
九臯 九皋	489 鶴【キュウコウ】に鳴き声天に聞こゆ
窮寇 窮寇	490 【キュウコウ】は追うこと勿れ
朽索	491 【キュウサク】の六馬を馭するが如し
九思	492 君子に【キュウシ】有り
鳩車	493 【キュウシャ】竹馬の友
牛溲	494 【ギウシュウ】馬勃敗鼓の皮
九仞 九仞	495 【キュウジン】の功を一簣に虧く
牛喘	496 【ギウゼン】を問う
窮鳥	497 【キュウチョウ】懐に入れば漁師も殺さず
九重	498 【キュウチョウ】の天
窮通	499 【キュウツウ】各命有り
九鼎	500 聞く時は【キュウテイ】より重く、見て後は一毫より軽し

牛鼎	501 【ギユウテイ】 鶏を煮る
牛蹄	502 【ギユウテイ】 の涿（しん）には尺の鯉無し
窮途	503 【キュウト】 の哭
窮余	504 【キュウヨ】 の一策
久離 旧離	505 【キュウリ】 を切る
渠	506 水到りて【キョ】 成る
炬	507 【キョ】 に付す
馭 御	508 朽索の六馬を【ギョ】 するが如し
拱	509 墓木已に【キョウ】 す
恭	510 貌には【キョウ】 を思う
怯	511 大勇は【キョウ】 なるが如し
矜	512 君子は【キョウ】 にして争わず、群にして党せず
堯	513 ・の犬【ギョウ】 に吠ゆ
伎癢 技癢	514 【ギョウ】 に堪えず
磴音	515 空谷の【キョウオン】
教誨 教戒 教誡	516 不屑の【キョウカイ】
俠氣 俠氣	517 友に交わるには須く三分の【キョウキ】 を帯ぶべし
矯矯	518 竜あり【キョウキョウ】 たり、頃く其の所を失う
恐懼	519 【キョウク】 戦兢なる者は患いを除く所以なり
恐懼	520 周公【キョウク】 す流言の日、王、謙恭す未だ篡せざるの時
狂狗	521 【キョウク】 塊を追う
薑桂	522 【キョウケイ】 の性
恐惶	523 礼に腰折れず、【キョウコウ】 に筆費えず
匡衡	524 【キョウコウ】 は学に勤めて燭なし
僥倖 微幸	525 万一を【ギョウコウ】 す

驕奢	526 富貴は【キョウシャ】を生ず
狭斜	527 【キョウシャ】の巷
挾書	528 【キョウシヨ】の律
喬松	529 【キョウシヨウ】の寿
皎然	530 大丈夫事を行うや、当に礚礚（らいらい）落落、日月の【キョウゼン】たるが如くなるべし
凝滞	531 聖人は物に【ギョウタイ】せず
筐底 筐底 篋底	532 【キョウテイ】に秘す
強弩	533 【キョウド】の末魯縞に入る能わず
喬木	534 【キョウボク】は風に折らる
喬木	535 幽谷を出でて【キョウボク】に遷る
狂瀾	536 【キョウラン】を既倒に廻らす
梟鸞	537 【キョウラン】は翼を交えず
虚器	538 【キョキ】を擁す
玉卮 玉卮	539 【ギョクシ】当無し
玉趾	540 【ギョクシ】を挙ぐ
旭日	541 【キョクジツ】昇天の勢い
棘心	542 凱風南よりして彼の【キョクシン】を吹く
曲鍼	543 磁石は【キョクシン】を受けず
踟躕	544 騏驎の【キョクチョク】するは驚馬の安歩に如かず
棘木	545 【キョクボク】の聴
虚諺	546 いにしえ【キョゲン】無し
魚缸	547 天篷【ギョコウ】石榴樹
魚豕	548 【ギョシ】の惑い
曲肱	549 【キョッコウ】の楽しみ
魚鼈	550 川淵深くして【ギョベツ】之に帰し、山林茂れば禽獸之に帰す

魚魯	551 【ギョロ】を弁せず
雪花菜	552 轆轤首が【キラズ】を食う
杞柳	553 性は猶【キリュウ】の如し
騏驎	554 【キリン】の躓き
騏驎	555 【キリン】も老いては驚馬に劣る
瑾	556 【キン】を懐き瑜を握る
槿花	557 【キンカ】一日の栄
槿花	558 命は【キンカ】の露の如し
近火	559 遠水【キンカ】を救わず
巾幘	560 【キンカク】の贈
金牛	561 【キンギユウ】を駆りて路を開く
襟裾	562 人にして古今に通ぜずんば馬牛にして【キンキョ】するなり
忻忻	563 貧賤に戚戚たらず、富貴に【キンキン】たらず
金谷	564 【キンコク】の酒数
琴瑟	565 【キンシツ】相和す
巾櫛	566 【キンシツ】を執る
禽獸	567 猩猩能く言えども【キンジュウ】を離れず
金屑	568 【キンセツ】貴しと雖も眼に入つて翳となる
巾箱	569 【キンソウ】の籠
衾枕	570 酔い来たりて空山に臥せば、天地は即ち【キンチン】なり
金鰐 金罈	571 泥鰯汁に【キンツバ】
金榜	572 【キンボウ】に名を掛く
瑾瑜	573 【キンユ】瑕を匿す
近憂	574 遠慮なければ【キンユウ】あり
金蘭	575 【キンラン】の契り

金欄	576 【キンラン】 着るか薦着るか
紵	577 五両で帯買うて三両で【ク】ける
嶮	578 虎【グウ】を負う
藕	579 【グウ】断えて糸連なる
藕糸	580 【グウシ】の孔
空濛	581 水光激濼（れんえん）として晴れ方に好く、山色【クウモウ】として雨も亦た奇なり
陸	582 水鳥【クガ】に惑う
公界	583 三人寄れば【クガイ】
矩鑿	584 良工は【クサク】の中に漸（なら）う
轄 楔	585 三寸の【クサビ】
嚏 嚏	586 南瓜が【クサメ】する
櫛	587 【クシ】の齒を挽く
籤 鬮	588 【クジ】は三度
嚏 嚏	589 狛が【クシャミ】をしたよう
燻	590 閻魔を抹香で【クス】べたよう
九層倍	591 薬【クソウバイ】
草臥	592 骨折り損の【クタビ】れ儲け
狗猪	593 【クチョ】も其の余を食わず
衢道	594 【クドウ】を行く者は至らず
狗馬	595 【クバ】の心
狗吠	596 鶏鳴【クハイ】相聞こゆ
踵 踝 跟	597 頂を摩して【クビス】に放（いた）る
茱萸 胡頹子 胡頹子	598 座頭の【グミ】
海月 水母	599 蛸に骨なし【クラゲ】に目なし
苦李	600 道傍の【クリ】



屈輪	601 【グリ】を舞う
樽	602 【クレ】は桶屋の棚にあり
畔	603 田走るより【クロ】走れ
群軽	604 【グンケイ】軸を折る
群蝨 群虱	605 【グンシツ】禪中に処る
葷酒	606 【クンシュ】山門に入るを許さず
君臣佐使	607 【クンシンサシ】の薬
燻腐 熏腐	608 【クンプ】の余
薰蕕	609 【クンユウ】は器を同じくせず
褻	610 【ケ】にも晴れにも歌一首
偈	611 七仏通戒の【ゲ】
蹊	612 桃李言わざれども、下自ら【ケイ】を成す
頃	613 一飯の【ケイ】
掲	614 深ければ厲し、浅ければ【ケイ】す
荊 荆	615 肉袒して【ケイ】を負う
桂	616 玉を食らい【ケイ】を炊ぐ
鯢	617 尺沢の【ゲイ】
慶庵 慶安 桂庵	618 【ケイアン】者の空笑い
讐咳	619 【ケイガイ】に接する
傾蓋 傾蓋	620 白頭新の如く、【ケイガイ】故の如し
形骸	621 【ケイガイ】を土木にす
傾蓋 傾蓋	622 【ケイガイ】の知己
溪壑 谿壑	623 【ケイガク】の欲
傾危	624 【ケイキ】の士
荊杞 荆杞	625 千村万落【ケイキ】を生ず

軽裘	626 肥馬に乗り、【ケイキュウ】を衣る
荆棘 荆棘	627 【ケイキョク】の道
荆棘 荆棘	628 師の処る所【ケイキョク】生ず
桂玉	629 【ケイギョク】の艱
炯炯	630 眼光【ケイケイ】として人を射る
瑩瑩	631 【ケイケイ】として子立し、形影相弔う
醯鷄	632 【ケイケイ】甕裏の天
蹊径	633 李下に【ケイケイ】無し
鯨鯢	634 命を【ゲイゲイ】の腮に懸く
蟪蛄	635 【ケイコ】は春秋を知らず
荊公 荊公	636 【ケイコウ】の字を解くが如し
軽忽	637 【ケイコツ】の頭に蠅がたかる
警策	638 【ケイサク】に接する
荊山 荊山	639 【ケイザン】の玉
啓処	640 【ケイショ】するに違あらず
勁松	641 【ケイショウ】は歳寒に彰れ、貞臣は国危に見る
軽塵	642 【ケイジン】弱草に棲む
勁草	643 疾風に【ケイソウ】を知る
継体	644 【ケイタイ】の君
閨中	645 【ケイチュウ】に威儀なし
軽重	646 鼎の【ケイチョウ】を問う
鷄鶩	647 鳳凰笈（ど）に在り【ケイボク】翔舞す
閨門	648 大功を天下に建つる者は必ず先ず【ケイモン】の内を修む
瓊瑤 瓊瑤	649 【ケイヨウ】は少なきを以て貴なりとし、石礫は多きを以て賤しとす
軽漾	650 【ケイヨウ】激して影唇を動かす

桂林	651 【ケイリン】の一枝、崑山の片玉
経綸	652 林泉の下に処りては、須らく廊廟の【ケイリン】を懐くことを要すべし
鶏肋	653 【ケイロク】捨て難し
檄	654 【ゲキ】を飛ばす
卻隙	655 白駒の【ゲキ】を過ぐるが若し
撃断	656 【ゲキダン】して諱む無し
逆旅	657 天地は万物の【ゲキリョ】、光陰は百代の過客
袈裟	658 布施ない経に【ケサ】落とす
桀	659 【ケツ】の犬堯に吠ゆ
桀	660 【ケツ】を助けて虐を為す
子遺	661 【ケツイ】あること無し
穴隙	662 【ケツゲキ】を鑽る
闕所	663 【ケツショ】の門に馬繋ぐ
桀紂	664 【ケツチュウ】其の身を忘る
挈瓶	665 【ケツベイ】の智
子立	666 .. として【ゲツリツ】し、形影相弔う
貶	667 口で【ケナ】して心で褒める
螻蛄 螻	668 【ケラ】腹立つれば鶉喜ぶ
啄木鳥	669 【ケラ】の子は卵から頷く
啄木鳥	670 【ケラツツキ】の子は卵から頷く
晃 晃	671 【ケリ】をつける
乾	672 【ケン】を旋らし坤を転ず
堦	673 伯氏【ケン】を吹き仲氏簾を吹く
暄	674 【ケン】を負う
蒹葭	675 【ケンカ】玉樹に倚る

懸河	676 【ケンガ】の弁
犬牙	677 【ケンガ】相制す
阮咸	678 【ゲンカン】は竿上の禪を手向く
懸魚	679 香餌の下には【ケンギョ】あり
檢校	680 一夜【ケンギョウ】向こう見ず
猷芹	681 野人【ケンキン】の意
涓涓	682 【ケンケン】壅がざれば終に江河となる
蹇蹇	683 王臣【ケンケン】躬の故にあらず
原憲	684 【ゲンケン】の貧
舷舷	685 【ゲンゲン】相摩す
乾坤	686 一擲【ケンコン】を賭す
懸車	687 【ケンシャ】の年
妍醜 妍醜	688 自家の【ケンシュウ】は自家知る
兼乘	689 明珠【ケンジョウ】も未だ一言に若かず
眷属 眷族	690 恒沙の【ケンゾク】
還俗	691 釈迦が【ゲンゾク】してきても
言質	692 【ゲンチ】を取る
涓滴	693 【ケンテキ】岩を穿つ
犬兎 犬兔 犬兔	694 【ケント】の争い
蹇兔 蹇兔 蹇兔	695 韓廬を馳せて【ケント】を逐う
権道	696 仏に方便聖人に【ケンドウ】
慳貪	697 【ケンドン】屋の冷や飯
健奴	698 【ケンヌ】は必ず無礼なり、驕る子は必ず不孝なり
玄翁 玄能	699 卵に【ゲンノウ】
犬馬	700 【ケンバ】の齡

犬馬	701 【ケンバ】の勞
犬馬	702 【ケンバ】の養い
堅白	703 【ケンパク】同異の弁
軒冕	704 【ケンベン】を泥塗にす
玄圃	705 燕石を裏み、【ゲンポ】を履み、魚目を帯びて漲海に遊ぶ
権輿	706 【ケンヨ】も無い
絢爛	707 【ケンラン】の極、平淡に造る
黔驢	708 【ケンロ】の技
賢路	709 【ケンロ】を避く
瞽	710 【コ】ならず聾ならざれば公たる能わず
賈	711 多錢、善く【コ】す
觚	712 【コ】を破り、雕を斲（けず）る
伍	713 衆草と【ゴ】す
伍	714 罷士は【ゴ】無く罷女は家無し
五噫	715 【ゴイ】を歌う
簧	716 巧言【コウ】の如し、顔之厚し
膏	717 【コウ】は明を以て焚かる
槁	718 【コウ】を折き落を振るう
隍	719 城【コウ】に復る
姮娥 嫦娥	720 【コウガ】月に奔る
江海	721 浴は【コウカイ】を必とせず、之が垢を去るを要す
慷慨 慷愾	722 【コウガイ】死に赴くは易し
笄 笄	723 比丘尼に【コウガイ】
笄鬠 笄鬢 笄鬣 笄鬣	724 腸持ちのお大黒【コウガイワゲ】の尊像
高閣	725 【コウカク】に束ぬ

溝壑	726 妄りに与うるは物を【コウガク】に遺棄するに如かず
溝壑	727 【コウガク】を填む
溝壑	728 志士は【コウガク】に在るを忘れず
抗顔	729 【コウガン】師と為る
公儀	730 【コウギ】を張る
好迷	731 窈窕たる淑女は君子の【コウキュウ】
孝経	732 【コウキョウ】で親の頭を打つ
溝洫	733 宮室を卑しくして力を【コウキョク】に尽くす
黄狗	734 狐裘弊ると雖も補うに【コウク】の皮を以てすべからず
肯綮	735 【コウケイ】に中たる
膏血	736 【コウケツ】を絞る
口血	737 【コウケツ】未だ乾かず
後顧	738 【コウコ】の憂い
江湖	739 魚は【コウコ】に相忘る
苟語	740 悪言は口より出ださず、【コウゴ】は耳に留めず
膏肓	741 病【コウコウ】に入る
佼佼	742 庸中の【コウコウ】
筌篚	743 【コウコウ】夢に入る
鴻溝	744 【コウコウ】を分かつ
鴻鵠	745 燕雀安んぞ【コウコク】の志を知らんや
鴻鵠	746 心【コウコク】にあり
衡山	747 【コウザン】の雲を開く
項斯	748 【コウシ】を説く
香餌	749 【コウジ】の下必ず死魚有り
孝慈	750 六親和せずして【コウジ】有り

膠漆	751 【コウシツ】の交わり
恒沙	752 【ゴウシャ】の眷属
好鬚	753 惟【コウシュ】を称するのみ
羔袖	754 狐裘にして【コウシュウ】す
膏燭	755 【コウショク】は明を以て自ら鑠す
庚申	756 話は【コウシン】の晩
後塵	757 【コウジン】を拝する
荒神	758 【コウジン】の火傷
考訊	759 其の阜に【コウジン】して出さば則ち怨靖からん
喉舌	760 【コウゼツ】の官
黄泉	761 【コウセン】の路上老少無し
勾踐	762 【コウセン】の本意
浩然	763 【コウゼン】の気を養う
鴻漸	764 【コウゼン】の翼
鴻爪	765 雪泥の【コウソウ】
蝗損	766 民疎懶の情を懐けば七歳【コウソン】に遇う
交態	767 一貧一富乃ち【コウタイ】を知る
浩大	768 雷声【コウダイ】雨点全く無し
後凋 後彫	769 【コウチョウ】の節
孝悌 孝弟	770 身を立つるは【コウテイ】を以て基と為す
狡兎 狡兔 狡兔	771 【コウト】死して良狗烹らる
溝瀆 溝澆	772 【コウトク】に縊る
項背	773 【コウハイ】相望む
黄白	774 【コウハク】を散じる
巷伯	775 【コウハク】の傷み

餽飯	776 【コウハン】も壺飧（こそん）に及ばず
曠夫 曠夫	777 内に怨女無く、外に【コウフ】無し
口吻	778 【コウフン】を洩らす
合浦	779 【ゴウホ】の珠還る
槁木	780 形は【コウボク】の如く心は死灰の如し
毫末	781 合抱の木も【ゴウマツ】に生ず
鴻毛	782 命は【コウモウ】より軽し
鴻毛	783 挙ぐることは【コウモウ】の如く、取ることは拾遺の如し
鴻毛	784 【コウモウ】を以て炉炭の上に燎く
毫毛	785 目は【ゴウモウ】を見るも睫を見ず
蝙蝠	786 【コウモリ】も鳥のうち
蝙蝠	787 鳥なき里の【コウモリ】
膏葉	788 理屈と【コウヤク】はどこへでもつく
膏葉	789 根太に【コウヤク】
膏葉	790 内股【ゴウヤク】
膏腴	791 【コウユ】の地
高陽	792 【コウヨウ】の酒徒
高麗縁	793 備後表に【コウライベリ】
蒿里	794 【コウリ】の歌
毫釐	795 【ゴウリ】の差は千里の謬り
蛟竜	796 水行して【コウリュウ】を避けざるは漁夫の勇なり
黄梁	797 【コウリョウ】一炊の夢
蛟竜	798 【コウリョウ】雲雨を得
亢竜	799 【コウリョウ】悔い有り
膏粱	800 【コウリョウ】の子弟



虹梁	801 箸に【コウリョウ】
剛辰	802 【ゴウレイ】自ら用う
劫藺 劫膈 劫臘	803 【コウロウ】を経る
紅炉上	804 【コウロジョウ】一点の雪
湖海	805 【コカイ】の士
御器	806 【ゴキ】も持たぬ乞食
狐裘	807 晏嬰の【コキュウ】
狐裘	808 【コキュウ】にして羔袖す
狐丘	809 【コキュウ】の戒め
枯魚	810 【コギョ】河を過ぎて泣く
鼓琴	811 【コキン】の悲しみ
鵠	812 【コク】は浴せずして白し
告朔	813 【コクサク】の餼羊（きよう）
黒貂	814 【コクチョウ】の裘
鵠卵	815 越鶏は【コ克蘭】を伏す能わず
孤閨	816 【コケイ】を守る
沽券 估券	817 【コケン】に関わる
呱呱	818 【ココ】の声をあげる
屈	819 【コゴ】み女に反り男
五湖	820 【ゴコ】に菓を売る
糊口 餬口	821 【ココウ】を凌ぐ
股肱	822 【ココウ】の臣
蜈蚣	823 百足【ゴコウ】の違ひ
甌	824 【コシキ】に座するが如し
痼疾	825 煙霞の【コシツ】

枯寂	826	【コジャク】の空
虎鬚	827	【コシュ】を編む
枯樹	828	【コジュ】、華を生ず
孤掌	829	【コショウ】鳴らし難し
御淀	830	飽かぬは君の【ゴジョウ】
拵	831	味噌汁【コシラ】えて初産する
錨	832	【コジリ】が詰まる
己心 己身	833	【コシン】の弥陀
狡	834	【コス】い子身をもたぬ
瞽女	835	【ゴゼ】の日高に着いたよう
虎髯 虎髯	836	【コゼン】を引き損ねる
去年	837	【コゾ】植えた柿の木
梧鼠 鼯鼠	838	【ゴソ】は五技にして窮す
五臓	839	夢は【ゴゾウ】の疲れ
胡孫	840	【コソン】、袋に入る
炬燵 火燵	841	【コタツ】で河豚汁
胡地	842	王昭君が【コチ】の旅
壺中 壺中	843	【コチュウ】の天
滑疑	844	【コツギ】の耀
告訐	845	【コッケツ】の風は長ずべからず
忽諸	846	【コッショ】に付する
鋏 鎗	847	当て【コテ】なしに左官はできぬ
涸轍	848	【コテツ】の鮒魚
梧桐	849	【ゴドウ】角を断つ
琴柱 箏柱 箏柱	850	【コトジ】に膠す

側柏 兎手柏	851 【コノテガシワ】の二面
琥珀	852 【コハク】は腐芥を取らず
虎斑	853 【コハン】は見易く人斑は見難し
虎皮	854 羊質にして【コヒ】を着す
狐媚	855 孤兒寡婦を欺き、【コビ】して以て天下を取るに効わず
木挽	856 鼠と【コビキ】は引かねば食われぬ
小鬢	857 【コビン】が禿げる
御幣束	858 井戸端の【ゴヘイソク】
虎変	859 大人は【コヘン】す
顧眄	860 鞍に拠りて【コベン】す
夸父	861 【コホ】の日を追うよう
牛蒡	862 人の【ゴボウ】で法事する
護摩	863 【ゴマ】の灰
拱	864 手を【コマヌ】く
蟬	865 【ゴマメ】の齒軋り
虚無僧	866 【コムソウ】に尺八
菰 薦	867 好きの道には【コモ】被る
薦 菰	868 当たる罰は【コモ】着ても当たる
紙綫 紙撚 紙捻	869 【コヨリ】の馬のよう
狐狸	870 戎馬を殺して【コリ】を求む
股栗 股慄	871 寇準、殿に上りて、百僚【コリツ】す
五厘	872 逢えば【ゴリン】の損がいく
枯骸	873 餓狗【コロ】を齧む
孤陋	874 独学にして友無きは【コロウ】にして寡聞
御覧	875 細工は流流仕上げを【ゴロウ】じろ

坤	876 乾を旋らし【コン】を転ず
崑山	877 桂林の一枝、【コンザン】の片玉
金神	878 鬼門【コンジン】我より崇る
濃漿	879 天の【コンズ】
禪中	880 群蝨【コンチュウ】に処る
昆弟	881 志合えば胡越も【コンテイ】たり、志合わざれば骨肉も讐敵たり
蒟蒻	882 【コンニャク】で石垣を築く
昏乱	883 国家【コンラン】して忠臣あり
袞竜 袞竜	884 【コンリョウ】の袖に隠れる
金輪	885 【コンリン】奈落の底
焜炉	886 【コンロ】に目鼻
崑崙 崑崙	887 【コンロン】火を失して玉石俱に焚く
渾崙 渾崙	888 【コンロン】、棗を呑む
梭	889 【サ】を投ぐる間
榎	890 三月の桜【ザ】め
賽	891 【サイ】は投げられた
綵衣 彩衣	892 【サイイ】親を娛しましむ
歳寒	893 【サイカン】の松柏
細謹	894 大行は【サイキン】を顧みず
菜羹	895 七種の【サイコウ】
犀甲	896 水に竜舟を断ち、陸に【サイコウ】を剗（き）る
細嚼	897 書を読むには須く熟読すべし、菜根は須く【サイシャク】すべし
采薪	898 【サイシン】の憂い
采椽	899 茅茨剪らず【サイテン】削らず
在天	900 【ザイテン】の霊

細腰	901 楚王【サイヨウ】を好み宮中に餓人有り
細流	902 河海は【サイリュウ】を扱ばず
豺狼 豺狼	903 【サイロウ】路に当たれり、いづくんぞ狐狸を問わん
豺狼 豺狼	904 愚かなる羊は【サイロウ】にその身を談ず
囀 啾 啁	905 勸学院の雀は蒙求を【サエズ】る
棹	906 流れに【サオ】さす
月代 月額	907 鍋の【サカヤキ】石の髭
箕	908 【サク】を易う
錯節	909 盤根【サクセツ】に遇いて利器を知る
策媒 策配	910 【サクバイ】がつかぬ
囁	911 【ササヤ】き千里
簞	912 傷持つ足は【ササラ】
雑餉 襟餉	913 【ザッショウ】を構える
札片 札枚	914 【サツビラ】を切る
佐命	915 【サメイ】の士
鎖鑰	916 北門の【サヤク】
鞞走	917 【サヤバシ】りより口走り
嗟来	918 【サライ】の食
箎	919 風下に【ザル】
篡 篡	920 周公恐懼す流言の日、王、謙恭す未だ【サン】せざるの時
讒	921 謀る者をば近づけ【ザン】する者をば覆す
三槐	922 【サンカイ】を植う
讒言	923 虎口の【ザンゲン】
三献	924 酒は【サンコン】に限る
讒臣	925 【ザンシン】国を乱し妬婦家を破る

三遷	926 孟母【サンセン】の教え
嶄然	927 【ザンゼン】として頭角を現す
残喘	928 【ザンゼン】を保つ
山藪 山藪	929 川沢汗（お）を納れ【サンソウ】疾を蔵す
惨怛	930 疾痛【サンダツ】、未だ嘗て父母を呼ばざるはあらず
三端	931 君子は【サントン】を避く
三番叟	932 指の先で【サンバソウ】を踏ませる
餐飯	933 努力【サンハン】を加えよ
三釜	934 【サンブ】の養
三忘	935 武士の【サンボウ】
駟	936 【シ】も舌に及ばず
食	937 一簞の【シ】、一瓢の飲
駟	938 【シ】の隙を過ぐるが若し
食	939 嗟来の【シ】
誣	940 神を【シ】うる者は、殃い三世に及ぶ
仕	941 【シ】を致す
肆	942 不善人と居るは鮑魚の【シ】に入るが如し
鷺	943 鳳鳴いて【シ】翰（はばた）きす
二	944 味わいを【ジ】せず
雌黄	945 口中の【シオウ】
疵瑕	946 【シカ】が見える
齒牙	947 【シガ】にも掛けない
柵	948 鹿の【シガラミ】
至貴	949 【シキ】は爵を待たず
死魚	950 香餌の下必ず【シギョ】有り

自彊	951	【ジキョウ】息まず
四衢	952	三界の火宅、【シク】の露地
舳艫	953	【ジクロ】相銜む
師曠 師曠	954	【シコウ】の聡
豕交	955	養って愛せざるは之を【シコウ】するなり
死屍	956	【シシ】に鞭打つ
榻	957	【シジ】の端書き
自屎	958	【ジシ】臭きことを覚えず
孳孳	959	鶏鳴に起き【ジジ】として善をなす
獅子吼	960	河東の【シシク】
鎗鉄	961	【シシュ】を遺さず
爾汝	962	【ジジョ】の交わり
私照	963	日月に【シショウ】無し
辞讓	964	【ジジョウ】の心は礼の端なり
賤 賤	965	【シズ】が伏せ屋に月もさす
咫尺	966	【シセキ】を弁ぜず
咫尺	967	盈丈の尾を見て【シセキ】の軀にあらざるを知る
耳朶	968	【ジダ】に触れる
七艘	969	【シチソウ】船のような面
砥柱	970	中流の【シチュウ】
輜重	971	【シチョウ】輸卒が兵隊ならば、蝶蝶蜻蛉も鳥の内
鷲鳥	972	【シチョウ】百を累ぬるも一鷲に如かず
瑟	973	竽を好むに【シツ】を鼓す
漆膠	974	【シッコウ】の契り
尻腰	975	【シッコシ】が無い

疾足	976 高材【シツソク】の者
質的	977 【シツテキ】張りて弓矢至る
舐犢	978 【シトク】の愛
鎬	979 【シノギ】を削る
駟馬	980 一言既に出ずれば【シバ】も追い難し
紫陌	981 青雲【シハク】の譏り
脂粉	982 【シフン】の氣
徒木	983 【シボク】の信
耳目	984 遠人に【ジボク】なし
滋蔓 滋曼	985 【ジマン】囿り難し
自脈	986 医者【ジミヤク】効き目なし
注連 標 七五三	987 播り粉木に【シメ】
鷓目	988 【シモク】大なれど視ること鼠に若かず
炙	989 【シャ】を欲する色
麝	990 【ジャ】あれば香し
赭衣	991 【シャイ】路に塞がる
錫	992 【シャク】を飛ばす
杓子	993 【シャクシ】は耳搔きにならず
綽綽	994 【シャクシャク】として余裕あり
錫杖	995 【シャクジョウ】が人を切ったよう
弱水	996 蓬萊【ジャクスイ】の隔たり
鵲巢	997 【ジャクソウ】風の起こる所を知る
寂寞 寂漠	998 【ジャクマク】の枢
寂滅	999 【ジャクメツ】の煙と立ち上る
芍薬	1000 立てば【シャクヤク】座れば牡丹



嚼蠟 嚼蠟	1001	名利は飴のごとく甘けれども、一たび死地に想い到れば、便ち味は【シャクロウ】の如し
蝦蛄 青竜蝦	1002	【シャコ】で鯛を釣る
麝香	1003	【ジャコウ】は臍故命をとらるる
車轂	1004	【シャコク】撃つ
社稷	1005	【シャシヨク】の臣
社稷	1006	民を貴しと為し【シャシヨク】之に次ぐ
車薪	1007	一杯の水を以て【シャシン】の火は救い難し
鯨	1008	鯨に【シャチホコ】
沙弥	1009	【シャミ】から長老にはなれぬ
沙裏	1010	一寸の光陰は【シャリ】の金
岫	1011	雲は無心にして【シュウ】をいず
繡 繡	1012	夜行くに【シュウ】を被る
醜	1013	愛してその【シュウ】を忘る
醜夷	1014	【シュウイ】に在りて争わず
驟雨	1015	飄風は朝を終えず、【シュウウ】は日を終えず
修遠	1016	比近説ばざれば【シュウエン】を務むる無かれ
衆寡	1017	【シュウカ】敵せず
衆曲	1018	【シュウキョク】は直を容れず
戎軒	1019	筆を投じて【ジュウケン】を事とす
愁猴	1020	【シュウコウ】が手を出だし斑狼が涙
秋毫	1021	目に【シュウゴウ】の末を察すれば耳に雷霆の声を聞かず
秋毫	1022	【シュウゴウ】を析つ
蝨斯	1023	【シュウシ】の化
習習	1024	【シュウシュウ】たる谷風、以て陰（くも）り以て雨降る
秋水	1025	腰間の【シュウスイ】

舅	1026	【シュウト】の物で相婿もてなす
姑	1027	【シュウトメ】の十七見た者ない
十能	1028	鬼が【ジュウノウ】を抱えたよう
秋波	1029	【シュウハ】を送る
戎馬	1030	【ジュウバ】を殺して狐狸を求む
愁眉	1031	【シュウビ】を開く
聚蚊	1032	【シュウブン】雷を成す
衆妙	1033	忍の一字は【シュウミョウ】の門
充閭	1034	【ジュウリョ】の慶
繡了 繡了	1035	鴛鴦【シュウリョウ】して君の看るに従（まか）す
聚斂	1036	【シュウレン】の臣あらんよりは寧ろ盗臣あれ
輸贏	1037	【シュエイ】を争う
菽	1038	悠長の趣は、醜醜（のうげん）に得ずして、【シュク】を啜り水を飲むに得
宿執	1039	【シュクジュウ】に目の潰るる
菽水	1040	【シュクスイ】の飲
菽麦	1041	【シュクバク】を弁ぜず
祝融	1042	【シュクユウ】の災い
熟路	1043	軽車の【ジュクロ】に付くが如し
豎子 豎子 孺子	1044	【ジュシ】ともに謀るに足らず
侏儒	1045	【シュジュ】は飽いて死せんと欲し、臣朔は饑えて死せんと欲す
繻子	1046	【シュス】の小袖に木綿裏
手蹟 手跡	1047	【シュセキ】は諸芸万能の上盛り
出藍	1048	【シュツラン】の誉れ
手臂	1049	【シュヒ】終に外に向かって曲げず
鬚眉	1050	目、鏡を失えば以て【シュビ】を正すこと無し

須弥	1051 螢火を以て【シュミ】を焼く
須弥山	1052 【シュミセン】と丈競べ
撞木	1053 鐘も【シュモク】の当たりがら
腫物	1054 口吸うと【シュモツ】にいえば耳立たず
寿夭	1055 命を信ずる者は【ジュヨウ】亡し
朱椀	1056 乞食に【シュワン】
殉	1057 身を以て利に【ジュン】ず
峻原	1058 高山【シュンゲン】草木を生ぜず、松柏の地は其の土肥えず
蓴菜 蓴 茆	1059 【ジュンサイ】で鰻繫ぐ
荀氏	1060 【ジュンシ】の八竜
春宵	1061 【シュンショウ】一刻直千金
春蘭	1062 【シュンラン】秋菊俱に廃すべからず
自余 爾余	1063 【ジヨ】に混せず
銷	1064 積毀骨を【ショウ】す
漿	1065 【ショウ】を乞いて酒を得る
牆 墻	1066 糞土の【ショウ】は朽（ぬ）るべからず
韶	1067 【ショウ】を聞くこと三月、肉の味わいを知らず
漿	1068 酒を【ショウ】とし肉を霍とす
鐘	1069 【ショウ】を聞いて日と為す
象	1070 太平【ショウ】無し
霄	1071 鸞鳳【ショウ】に沖するは必ず羽翼を仮る
妾	1072 箕帚の【ショウ】
牆 墻	1073 【ショウ】を負いて立つ
殤	1074 無服の【ショウ】
樵	1075 百里【ショウ】を販がず千里糶を販がず

仗	1076 【ジョウ】に立つの馬を見ずや
傷痕	1077 【ショウイ】未だ癒えず
笙歌	1078 【ショウカ】遥かに聴く孤雲の上、聖衆来迎す落日の前
上下	1079 【ショウカ】、心を一にす
變和	1080 【ショウカ】の官
城下	1081 【ジョウカ】の盟
上客	1082 焦頭爛額を【ジョウカク】と為す
賞翫 賞玩	1083 早いが【ショウガン】
鍾馗	1084 【ショウキ】大臣の棚から落ちたよう
鍾馗	1085 【ショウキ】の立腹
傷弓	1086 【ショウキウ】の鳥
章句	1087 【ショウク】を尋ねる
浹洽	1088 明日一理を弁え、久しくすれば自然に【ショウコウ】す
葉公	1089 【ショウコウ】の竜
定業	1090 【ジョウゴウ】が極まる
莊嚴	1091 信は【ショウゴン】より起こる
蕭牆 蕭牆	1092 【ショウショウ】の憂え
蕭蕭	1093 風【ショウショウ】として易水寒し
霄壤	1094 【ショウジョウ】の差
猩猩	1095 【ショウジョウ】は血を惜しむ、犀は角を惜しむ
睫上	1096 離朱が明も【ショウジョウ】の塵を視る能わず
掌上	1097 【ショウジョウ】に運らす
憔悴	1098 栄華有る者は必ず【ショウスイ】あり
誦数	1099 【ショウスウ】以て之を貫く
小成	1100 道は【ショウセイ】に隠れ、言は栄華に隠る

掌中	1101 【ショウチュウ】の珠
鐘鼎	1102 【ショウテイ】の門
焦熱	1103 名聞は【ショウネツ】の爪木
傷悲	1104 少壯にして努力せずんば老大にして乃ち【ショウヒ】せん
焼眉 焦眉	1105 【ショウビ】の急
蕭敷	1106 蘭摧玉折を為すも【ショウフ】艾榮をは作さじ
焦釜	1107 漏甕を奉じて【ショウフ】に沃ぐ
菖蒲	1108 桜三月、【ショウブ】は五月
城府	1109 【ジョウフ】を設けず
章甫	1110 【ショウホ】履に薦く
章甫	1111 【ショウホ】を資して越に適く
正法	1112 【ショウボウ】に不思議なし
縄墨	1113 大匠は拙工の為に【ジョウボク】を改廃せず
上慢	1114 【ジョウマン】の幢（はたほこ）
焦螟	1115 【ショウメイ】蚊睫に集まる
昭名	1116 陰行あれば【ショウメイ】あり
焼亡	1117 人は盗人火は【ジョウモウ】
少愈	1118 病は【ショウユ】に加わる
松蘿	1119 【ショウラ】の契り
變理	1120 陰陽を【ショウリ】す
鷓鴣	1121 【ショウリョウ】深林に巣くうも一枝に過ぎず
上臙 上臙	1122 魚は【ジョウロウ】に焼かせよ、餅は下種に焼かせよ
上臙 上臙	1123 下衆無い【ジョウロウ】は成らず
蕉鹿	1124 【ショウロク】の夢
絮果	1125 会うや柳因、別るるや【ジョカ】

雉鳩	1126 関関たる【シヨキュウ】は河の洲に在り
杵臼	1127 【シヨキュウ】の交わり
蜀	1128 隴を得て【シヨク】を望む
埴	1129 冥行して【シヨク】を擿（さぐ）る
燭寸	1130 【シヨクスン】の詩
除胥	1131 其の人を憎まば其の【ジョシヨ】を憎む
書疏	1132 尺牘【シヨソ】は千里の面目
書厨 書廚	1133 両脚の【シヨチュウ】
蜀犬	1134 【シヨッケン】日に吠ゆ
女羅 女蘿	1135 兔糸【ジョラ】に付く
黍離	1136 【シヨリ】の嘆
精	1137 【シラ】げの中の粿
白癬 白禿瘡	1138 仁王の【シラクモ】
仕埒	1139 【シラチ】を分ける
蝨 虱	1140 【シラミ】を捫る
芝蘭	1141 【シラン】の友
芝蘭	1142 【シラン】の室に入るが如し
芝蘭	1143 【シラン】の化
鞅 紂 尻繫 尻繫	1144 年寄の言う事と牛の【シリガイ】は外れない
枝流	1145 吞舟の魚は【シリユウ】に游がず
二竜	1146 【ジリョウ】の闘い
吝	1147 【シワ】ん坊と灰吹きは溜まるほど汚い
吝	1148 【シワ】ん坊の柿の種
撓	1149 けんによう切れて胸【シワ】らす
晨	1150 牝鶏の【シン】

譜 譜	1151 浸潤の【シン】
瞋恚 嗔恚	1152 【シンイ】の炎
畛域	1153 【シンイキ】を撤して諸生を待つ
深壑	1154 湍水の【シンガク】に赴くが若し
神祇	1155 【ジンギ】釈教恋無常
簪裾	1156 一竿の竹、【シンキョ】に換えず
腎虚	1157 【ジンキョ】の練り薬
呻吟	1158 無病にして【シンギン】す
沈香 線香	1159 【ジンコウ】も焚かず屁もひらず
塵垢	1160 鏡明らかなれば則ち【ジンコウ】止まらず
参商	1161 【シンショウ】の隔て
晋秦	1162 【シンシン】の好
薪水	1163 【シンスイ】の労
針錐	1164 痛処に【シンスイ】を下す
晨星	1165 落落として【シンセイ】の相望むが如し
新造	1166 四十【シンゾ】五十島田
深窓	1167 【シンソウ】の佳人
糗糒	1168 隣の【ジンダ】味噌
真鍮	1169 【シンチュウ】を磨く
沈丁花 瑞香	1170 【ジンチョウゲ】は枯れても芳し
塵点	1171 過去【ジンテン】の如し
塵土	1172 白鷺は【ジンド】の穢れを禁ぜず
新発意	1173 【シンボチ】太鼓
慎莫 身莫	1174 【シンマク】に負えぬ
箴末	1175 離朱の明は【シンマツ】を百歩の外に察すれども淵中の魚を見る能わず

針妙	1176 袖は【シンミョウ】の半仕事
薪燎	1177 【シンリョウ】を積むが若し
針縷	1178 【シンル】に順う者は帷幕を成す
鯁	1179 命が【ス】える
挿	1180 柄の無い所に柄を【ス】げる
素裕	1181 伊達の【スアワセ】
萃	1182 類を出で【スイ】を抜く
帥	1183 三軍も【スイ】を奪うべし
駢	1184 【スイ】逝かず
燧	1185 火を乞うは【スイ】を取るに若かず
椳	1186 棟折れ【スイ】崩る
椳桷	1187 大は棟梁と為し小は【スイカク】と為す
水旱	1188 良農は【スイカン】の為に耕さずんばあらず
随喜	1189 【ズイキ】の涙
炊臼	1190 【スイキュウ】の夢
垂拱	1191 【スイキョウ】して天下治まる
垂棘	1192 青蠅も【スイキョク】を穢す能わず
粹様	1193 暗がり様は【スイサマ】
推参	1194 杯に【スイサン】無し
垂迹	1195 利物の【スイジャク】
隋珠 随珠	1196 【ズイシュ】をもって雀を弾つ
錐刃	1197 ..諸【スイジン】を懐けども天下勇と為す
惴惴	1198 温温たる恭人は、木に集（とど）まるが如し、【ズイズイ】たる小心は、谷に臨むが如し
垂涎	1199 【スイゼン】の的
錐刀	1200 【スイトウ】を以て太山を墮つ



垂簾	1201 【スイレン】の政
水潦	1202 海は【スイロウ】を譲らず、以て其の大を成す
趨舎	1203 【スウシャ】時あり
芻蕘 芻蕘	1204 【スウジョウ】に詢る
縋	1205 藁にも【スガ】る
攀 縋	1206 轅に【スガ】りて轍に臥す
眇	1207 矯めつ【スガ】めつ
宿世	1208 行き摩りの【スクセ】
宿禰 宿祢	1209 飲みの【スクネ】
鼈	1210 月と【スッポン】
鼈	1211 【スッポン】が時をつくる
脛	1212 親の【スネ】を齧る
角鬘	1213 後ろ坊主の前【スミカズラ】
掬摸 掬児	1214 仕置き場の【スリ】
受領	1215 【ズリョウ】は倒るる所に土を掴め
寸膠	1216 【スンコウ】は黄河の濁を治する能わず
飄石	1217 腕無しの振り【ズンバイ】
井蛙	1218 【セイア】の見
精衛	1219 【セイエイ】、海を填む
盛筵	1220 勝地は常ならず、【セイエン】は再びし難し
臍下	1221 【セイカ】丹田に力を入れる
齊家	1222 修身【セイカ】治国平天下
青蛾	1223 火を恋う【セイガ】は焰に焼かれ、花を食る胡蝶は蜘蛛の網（い）にかか る
成毀	1224 物の【セイキ】は、亦た自ら定数あり
正鵠	1225 【セイコク】を射る

正鶴	1226 【セイコク】を失わず
正朔	1227 【セイサク】を奉ず
青山	1228 人間到る処【セイザン】有り
盛事	1229 文章は経国の大業不朽の【セイジ】
盛昌	1230 【セイショウ】我意に任す
濟勝	1231 【セイショウ】の具
青芻 青藜	1232 奴には白飯を与え、馬には【セイスウ】
濟濟	1233 【セイセイ】たる多士文王以て寧し
腥羶	1234 群蟻【セイセン】に付く
青黛	1235 【セитай】が立て板に香炉木の墨
棲遲 栖遲	1236 衡門の下以て【セイチ】すべし
成竹	1237 胸中に【セイチク】あり
掣肘	1238 旁らより時に【セイチュウ】す
盛年	1239 【セイネン】重ねて来らず
齊眉	1240 【セイビ】の礼
精兵	1241 素引きの【セイビョウ】
青蠅 青蠅	1242 【セイヨウ】白を染む
青蠅 青蠅	1243 【セイヨウ】も垂棘を穢す能わず
青藍	1244 【セイラン】の器
勢利	1245 【セイリ】の交わり
齊魯	1246 【セイロ】の学
贅六	1247 上方【ゼイロク】に広島乞食
螫	1248 猛虎の猶予するは蜂蠆の【セキ】を致すに若かず
跖	1249 【セキ】の狗彘に吠ゆ
尺蚓	1250 【セキイン】堤を穿てば一邑を漂わす

積羽	1251 【セキウ】舟を沈む
碩学	1252 晩学と雖も【セキガク】に昇る
石莒	1253 【セキショウ】鉢の目高
赤縄	1254 【セキジョウ】の因を結ぶ
析薪	1255 【セキシン】を負う
尺寸	1256 【セキスン】の兵
戚戚	1257 君子蕩蕩として小人【セキセキ】たり
碩鼠 石鼠	1258 【セキソ】五能一技を成さず
刺草	1259 【セキソウ】の臣
尺沢	1260 【セキタク】の鯢
尺牘	1261 【セキトク】書疏は千里の面目
赤貧	1262 【セキヒン】洗うが如し
隻鳧 隻鳧	1263 【セキフ】の別れ
尺璧	1264 【セキヘキ】宝に非ず、寸陰是競う
尺璧	1265 聖人は【セキヘキ】を貴ばずして寸陰を重んず
隻輪	1266 匹馬【セキリン】も反るなし
鵲鵲	1267 【セキレイ】原に在り、兄弟難を急にす
磧礫	1268 【セキレキ】になれて玉淵をうかがわず
石礫	1269 ・瑤は少なきを以て貴なりとし、【セキレキ】は多きを以て賤しとす
跼	1270 天に【セグクマ】り地に躡す
泄	1271 事は密を以て成り、語は【セツ】を以て敗る
狭匙 切匙	1272 【セツカイ】で腹を切る
尺蠖	1273 【セツカク】の屈するは以て信びんことを求むるなり
折檻	1274 母の【セツカン】より隣の人扱いが痛い
積毀	1275 【セツキ】骨を銷す

刹鬼 殺鬼	1276 無常の【セッキ】
節所 切所 殺所	1277 猛勢【セッショ】なし
拙誠	1278 巧詐は【セッセイ】に如かず
雪隠	1279 【セッチン】の錠前
拙縫	1280 姑に【セッポウ】なし
洩漏	1281 天機【セツロウ】すべからず
鬪	1282 兄弟牆に【セメ】げども外其の務りを禦ぐ
糶	1283 植木屋の【セリ】分け
筌	1284 魚を得て【セン】を忘る
饌	1285 金を炊ぎ玉を【セン】す
倩	1286 巧笑【セン】たり、美目盼（へん）たり
綫 線	1287 絶えざること【セン】の如し
漸	1288 【ゼン】を杜じ、萌を防ぐ
泉下	1289 【センカ】の客となる
疝氣 疝	1290 人の【センキ】を頭痛に病む
遷喬	1291 【センキョウ】の楽しみ
千鈞	1292 一髮【センキン】を引く
千行	1293 【センコウ】の涙
宣旨	1294 夏の氷は【センジ】なければ氷らず
僭上 僭上	1295 我が物いらすの【センジョウ】張り
川上	1296 【センジョウ】の嘆
千仞 千尋	1297 積水を【センジン】の谿に決す
織織	1298 禍いは【センセン】より生ず
吮疽	1299 【センソ】の仁
然諾	1300 【ゼンダク】を重んじる

栴檀	1301 【センダン】は双葉より芳し
栴檀	1302 朝日【センダン】乾森
雪隠	1303 【センチ】の火事
筌蹄	1304 書は道を求むる【センテイ】なり
全豹	1305 一斑を見て【ゼンピョウ】をトす
膳部	1306 【ゼンブ】揃うて箸を取れ
先鞭	1307 【センベン】を著ける
賤蚌 賤蚌	1308 貴珠は【センボウ】より出ず
千慮	1309 【センリョ】の一失
麤 麤	1310 精を得て【ソ】を忘る
阜	1311 牛驥、【ソウ】を同じくす
竈 竈	1312 奥に媚びんよりは寧ろ【ソウ】に媚びよ
甑	1313 【ソウ】を落として顧みず
燥	1314 薪を均して火を施せば火は【ソウ】に就く
創痍	1315 【ソウイ】未だ瘡（い）えず
滄海	1316 【ソウカイ】の一粟
滄海	1317 【ソウカイ】変じて桑田と成る
総角	1318 【ソウカク】の好
桑間	1319 【ソウカン】濮上（ぼくじょう）の音
宗祇	1320 【ソウギ】の蚊帳
叢輕	1321 【ソウケイ】軸を折る
糟糠	1322 【ソウコウ】の妻
蚤甲	1323 利を争うこと【ソウコウ】の如くにして其の掌を失う
相好	1324 【ソウゴウ】を崩す
莊周	1325 【ソウシュウ】の夢

宗匠	1326 【ソウショウ】の夜の雨
宋襄	1327 【ソウジョウ】の仁
曾参	1328 【ソウシン】人を殺す
蒼生	1329 乃公出でずんば【ソウセイ】を如何せん
錚錚	1330 鉄中の【ソウソウ】
葱葱	1331 気佳なるかな、鬱鬱【ソウソウ】たり
滄桑	1332 【ソウソウ】の変
叢中	1333 万緑【ソウチュウ】紅一点
甌中	1334 【ソウチュウ】塵を生じ、釜中魚を生ず
桑中	1335 【ソウチュウ】の喜び
糟魄 糟粕	1336 古人の【ソウハク】
臙腑	1337 【ゾウフ】を揉む
桑蓬	1338 【ソウホウ】の志
臙鋒	1339 【ゾウホウ】を貴ぶ
桑麻	1340 【ソウマ】の交
草莽	1341 【ソウモウ】の臣
桑榆	1342 之を東隅に失い【ソウユ】に収む
桑榆	1343 【ソウユ】且に迫らんとす
草萊 草萊	1344 【ソウライ】を辟く
叢蘭 草蘭	1345 【ソウラン】茂らんと欲し秋風之を敗る
総領 惣領	1346 【ソウリョウ】の甚六
倉廩	1347 【ソウリン】実ちて礼節を知る
楚越	1348 肝胆も【ソエツ】なり
粟	1349 金湯の固きも【ゾク】に非ざれば守らず
続飯	1350 考えと【ソクイ】は練る程良い

惻隱	1351 【ソクイン】の心は仁の端なり
狙公	1352 【ソコウ】椽を賦（くば）る
膺穴	1353 【ソシシ】の空国
鼠首	1354 【ソシュ】事を破る
蔬筍 蔬笋	1355 【ソジュン】の気
俎上	1356 【ソジョウ】の肉
祖生	1357 【ソセイ】の先鞭
則闕 即闕	1358 【ソッケツ】の官
率土	1359 普天の下、【ソット】の浜
外方	1360 【ソッポ】を向く
祖逖	1361 【ソテキ】の誓い
園生	1362 紅は【ソノウ】に植えても隠れなし
楚幕	1363 【ソバク】に鳥有り
欮	1364 遺愛寺の鐘は枕を【ソバダ】てて聴く
聳 竦	1365 肩を【ソビ】やかす
抑 抑抑	1366 【ソモソモ】から着きにけりまで
疎懶	1367 民【ソラン】の情を懐けば七歳蝗損に遇う
算盤 十露盤	1368 商人の子は【ソロバン】の音で目をさます
遜	1369 一籌を【ソン】ずる
蹲鴟	1370 【ソンシ】を悪鳥と為す
矯	1371 制を【タ】む
唾	1372 面に【ダ】せば自ら乾く
駝	1373 南人【ダ】を夢見ず北人象を夢見ず
大廈 大厦	1374 【タイカ】の材は一丘の木に非ず
大廈 大厦	1375 【タイカ】の顛るや、一木の支うる所に非ず

大廈 大厦	1376 一木【タイカ】の崩るるを支うる能わず
大姦 大奸	1377 【タイカン】は忠に似たり
大旱	1378 【タイカン】の雲霓を望むが若し
醍醐	1379 【ダイゴ】の上味翻じて毒薬となる
大羹	1380 【タイコウ】は和せずして遺味あり
乃公 迺公 迺公	1381 【ダイコウ】出でずんば蒼生を如何せん
大嚼	1382 屠門を過ぎて【タイシャク】す
大尽	1383 昨日の【ダイジン】、今日の乞食
大象	1384 女の髪毛には【タイゾウ】も繋がる
対対	1385 人は花実【タイタイ】
大沢	1386 深山【ダイタク】竜蛇を生ず
大椿	1387 【ダイチン】の寿
頽魄 頽魄	1388 【タイハク】再び円かならず
大鵬	1389 鸞鳩【タイホウ】を笑う
大理	1390 鵲【ダイリ】の庭に巣くう
带厲 带礪 带砺	1391 【タイレイ】の誓い
大牢	1392 藜羹を食らう者は【タイロウ】の滋味を知らず
蛇影	1393 杯中の【ダエイ】
箍	1394 【タガ】が緩む
高木履	1395 日照りの【タカボクリ】
鐸	1396 【タク】は声を以て自ら毀る
沢梁	1397 【タクリョウ】禁無し
筍 笋	1398 雨後の【タケノコ】
胼胝 胼胝	1399 耳に【タコ】ができる
担桶	1400 小便【タゴ】にも小波



襷	1401 帯に短し【タスキ】に長し
蛇勢	1402 常山の【ダセイ】
踏鞴 踏鞴	1403 【タタラ】を踏む
駝鳥 駝	1404 乞食の【ダチョウ】
答拜	1405 馳走【タッパイ】
蓼	1406 【タデ】食う虫も好き好き
炭団	1407 【タドン】に目鼻
掌	1408 【タナゴコロ】を反す
手底	1409 【タナソコ】にめぐらす
種瓢 種瓢 種匏	1410 【タネフクベ】の底を叩く
頼母子	1411 無尽の【タノモシ】を頼むよう
鬚	1412 手酌五合、【タボ】一升
例	1413 誉める人を買った【タメシ】なし
袂	1414 【タモト】を分かつ
誑	1415 胴殻を【タラ】かす
撓 撓	1416 色を見て枝を【タワ】む
啖呵 啗呵	1417 【タンカ】を切る
短褐	1418 寒者は【タンカツ】を利とす
断機	1419 【ダンキ】の戒め
端倪	1420 【タンゲイ】すべからず
丹漆	1421 【タンシツ】文らず
貪者	1422 銭財積まざれば則ち【タンシャ】憂う
箆筒 箆筒	1423 藪医者 of 薬味【ダンス】
湍水	1424 性は猶【タンスイ】のごとし
湍水	1425 【タンスイ】の深壑に赴くが若し

旦夕	1426 【タンセキ】に迫る
丹石	1427 【タンセキ】の心
胆斗	1428 【タント】の如し
檀那	1429 しつこい坊主に【ダンナ】がない
端木	1430 【タンボク】、金を辞す
探卵	1431 【タンラン】の患い
湛盧	1432 【タンロ】の劍
箎	1433 伯氏壘を吹き仲氏【チ】を吹く
地維	1434 天柱折け【チイ】欠く
微羽	1435 【チウ】の操
杠 杠秤 扛秤	1436 家鴨の【チギ】重し負うたような
值遇	1437 【チグ】の縁
畜聚 蓄聚	1438 【チクシュウ】の臣
竹帛	1439 功名を【チクハク】に垂る
竹帛	1440 【チクハク】の功
蒿苳	1441 【チシャ】の葉の搔き取り
置錐	1442 【チスイ】の地
馳走	1443 【チソウ】終わらば油断すな
蜘蛛	1444 【チチュ】が網を張りて鳳凰を待つ
馳騁	1445 天下の至柔は、天下の至堅を【チテイ】す
池塘	1446 【チトウ】春草の夢
遲暮 遲莫	1447 【チボ】の嘆
茶筌 茶筌	1448 髪結いの【チャセン】髪
矮鷄	1449 能書きと【チャボ】の時は当てにならぬ
誅	1450 鉤を窃む者は【チュウ】せられ、国を窃む者は諸侯となる

衷	1451 服の【チュウ】ならざるは身の災いなり
置郵	1452 【チュウ】して命を伝えるより速やかなり
中有	1453 【チュウウ】に迷う
中葺	1454 【チュウコウ】の言
籌策 籌筭	1455 【チュウサク】を帷帳の中に運らし、勝を千里の外に決す
誅心	1456 【チュウシン】の法
疇昔 疇昔	1457 【チュウセキ】の夜
惆悵	1458 【チュウチョウ】の藤は松に離れて便り無し
沖漠	1459 【チュウバク】無睽（むちん）万象森然
綢繆	1460 牖戸を【チュウビュウ】す
中天	1461 珍事【チュウヨウ】時の過ち
沖和	1462 【チュウワ】の氣
黜陟	1463 幽明を【チュツチョク】す
貂	1464 狗尾をもて【チョウ】に継ぐ
朝	1465 百川海に【チョウ】す
漲海	1466 燕石を裏み、玄圃を履み、魚目を帯びて【チョウカイ】に遊ぶ
長鋏	1467 【チョウキョウ】帰らんか、食に魚無し
張皇	1468 罅漏を補苴し、幽眇を【チョウコウ】す
嘲齋坊	1469 【チョウサイボウ】にする
銚子	1470 お手が鳴るなら【チョウシ】と悟れ
朝市	1471 大隠は【チョウシ】に隠る
暢師坊	1472 【チョウシボウ】の夜の聞き
寵辱	1473 【チョウジヨク】皆忘る
冢中	1474 【チョウチュウ】の枯骨
喋喋	1475 【チョウチョウ】しきは恥じ易し

手斧	1476 用いられぶり【チョウナ】頭
長阪 長坂	1477 駿足【チョウハン】を思う
掉尾	1478 【チョウビ】の勇を奮う
長鞭	1479 【チョウベン】馬腹に及ばず
兆民	1480 王は【チョウミン】を子とす
頂門	1481 【チョウモン】の一針
頂礼	1482 【チョウライ】昂じて尼になる
重卵	1483 【チョウラン】の危うき
朝露	1484 危うきこと【チョウロ】の如し
猪牙	1485 【チョキ】が親船
樗材	1486 【チョザイ】千年の寿も如かじ槿花一日の栄には
直諫 直諫	1487 【チョツカン】は一番槍より難し
直躬	1488 【チョツキュウ】父を証す
樗蒲一	1489 【チョボイチ】なら七里帰っても張れ
樗櫟 樗櫟	1490 【チョレキ】の材
身柱 天柱	1491 【チリケ】から水を掛ける
鏤	1492 脂に画き氷に【チリバ】む
鏤	1493 梓に【チリバ】む
銚釐	1494 鍋に耳あり【チロリ】に口あり
狷	1495 酒の席には【チン】、猫、婆
陳蔡	1496 【チンサイ】の厄
沈竈 沈竈	1497 【チンソウ】蛙を産す
鳩鳥	1498 【チンチョウ】海に隠れて鯨を害す
猷毒 鳩毒	1499 宴安は【チンドク】
椿葉	1500 【チンヨウ】の影再び改まる

接	1501 割った茶碗を【ツ】いでみる
啄 啗	1502 蠹【ツイバ】みて梁柱を割く
痛痒 痛癢	1503 【ツウヨウ】を感じず
問	1504 祭が【ツカ】える
番	1505 言葉を【ツガ】う
蹲	1506 因果が【ツクバ】う
鵯 鶇	1507 蝮姑腹立つれば【ツグミ】喜ぶ
鵯 鶇	1508 渡り鶇に戻り【ツグミ】
晦日 晦	1509 祭の延びた六月の【ツゴモリ】
辻褄	1510 【ツジツマ】を合わせる
襪褌	1511 昨日の【ツヅレ】、今日の錦
唾	1512 【ツバキ】で矢を矧ぐ
螺貝 海螺貝	1513 【ツブガイ】の念仏
礫 飛礫	1514 【ツブテ】発句は誰もする
蕾	1515 出ずる日【ツボ】む花
紡錘 錘	1516 【ツム】の緒の切れたよう
露隠	1517 【ツユゴモ】りの葉月
交尾 遊牝	1518 鶏初めて【ツル】む
柢 蒂 蒂	1519 根を深くして【テイ】を固くす
鶇	1520 【テイ】翼を濡らさず
鄭衛	1521 【テイエイ】の音
鄭家	1522 【テイカ】の奴は詩をうたう
庭階	1523 芝蘭玉樹【テイカイ】に生ず
棣鄂	1524 【テイガク】の情
庭訓	1525 【テイキン】三月四書大学

提挈	1526 朋友には相躰えず、顔白には【テイケツ】せざれ
程孔	1527 【テイコウ】蓋を傾く
程朱	1528 【テイシュ】の学
鄭声	1529 【テイセイ】雅を乱る
鼎俎	1530 【テイソ】に免れず
鼎足	1531 【テイソク】の勢い
泥塗	1532 軒冕を【デイト】にす
鼎鑪	1533 【テイトウ】も尚耳あり
鄭白	1534 【テイハク】の衣食に飽く
程門	1535 【テイモン】雪に立つ
羝羊	1536 【テイヨウ】藩に触る
泥裏 泥裡	1537 【デイリ】に土塊を洗う
蹄窪	1538 【テイワ】の内、蛟竜を生せず
糶	1539 百里樵を販がず千里【テキ】を販がず
擲果	1540 【テキカ】、車に満つ
躑躅	1541 飛鳥故郷を過ぐるや猶【テキチョク】徘徊す
埵	1542 山に躑かざして【テツ】に躑く
涅	1543 【デッ】すれども縮まず
鉄硯	1544 【テッケン】を磨穿す
鉄杵	1545 【テッショ】を磨く
轍迹	1546 善行は【テッセキ】無し
鉄桶	1547 【テットウ】水を漏らさず
鉄鉢	1548 【テツパツ】ひっかける
轍鮒	1549 【テツプ】の急
蝸牛	1550 【デデムシ】が日和を知る

弓爾乎波 天爾遠波	1551 【テニヲハ】 が合わない
銜	1552 玉を【テラ】いて石を買う
寺啄	1553 【テラツツキ】の子は卵から頷く
貂 黄鼬	1554 鼬の無き間の【テン】誇り
貂 黄鼬	1555 【テン】なき森の鼬
天淵 天淵	1556 【テンエン】の差
填海 填海	1557 【テンカイ】の志
天衢	1558 鱗を清流に濯い、翼を【テング】に飛ばす
点睛	1559 画竜【テンセイ】を欠く
田鼠	1560 【デンソ】化して鶉となる
椽大	1561 【テンダイ】の筆
顛墜 顛墜	1562 高山に登らざる者は、【テンツイ】の患いを知ること無し
輾転 展転	1563 【テンテン】の思い
天府	1564 【テンプ】の国
転蓬	1565 生涯は【テンプウ】に似たり
天篷	1566 【テンプウ】魚缸石榴樹
鍍	1567 真金は【ト】せず
蠹 蠹	1568 【ト】啄みて梁柱を刮く
蠹 蠹	1569 枯魚索を銜む、幾何か【ト】せざらん
臺	1570 【トウ】が立つ
籐	1571 牛麩に【トウ】を通す
等閑	1572 【トウカン】に付す
東隅	1573 之を【トウグウ】に失い桑榆に収む
倒懸	1574 【トウケン】の急
董狐	1575 【トウコ】の筆

党錮	1576 【トウコ】の禍い
銅壺 銅壺	1577 焼け原に【ドウコ】引く
東閣	1578 【トウコウ】を開いて、以て賢人を延く
堂構	1579 【ドウコウ】を紹ぐ
倒載	1580 干戈を【トウサイ】す
東作	1581 【トウサク】の業
盜臣	1582 聚斂の臣あらんよりは寧ろ【トウシン】あれ
堂陞	1583 千金の子【ドウスイ】に坐せず
盜跖	1584 孔丘【トウセキ】俱に塵埃
盜跖	1585 孔子に【トウセキ】
盜泉	1586 渴すれども【トウセン】の水を飲まず
刀俎	1587 【トウソ】魚肉の際
幢相	1588 解脱【ドウソウ】の衣
頭足	1589 冠履を貴んで【トウソク】を忘る
洞庭	1590 【ドウテイ】濔しと雖も之を負む者は北（やぶ）る
滔天	1591 【トウテン】の勢い
蕩蕩	1592 君子【トウトウ】として小人戚戚たり
塔婆	1593 七本【トウバ】になる
刀筆	1594 【トウヒツ】の吏
道傍	1595 【ドウボウ】の苦李
道傍	1596 舎を【ドウボウ】に作れば三年にして成らず
撞末	1597 【トウマツ】の技
銅脈	1598 【ドウミヤク】食わす
胴乱	1599 竹の【ドウラン】でくるには及ばぬ
東籬	1600 菊を【トウリ】の下に采り、悠然として南山を見る



棟梁	1601 松は二葉より【トウリョウ】の思いあり
棟梁	1602 【トウリョウ】の器
桃林	1603 牛を【トウリン】の野に放つ
答礼	1604 青海苔の【トウレイ】に太太神楽を打つ
螻蛄 螳螂 螳螂 螳螂 螳螂	1605 【トウロウ】の斧
螻蛄 螳螂 螳螂 螳螂 螳螂	1606 【トウロウ】の衛
道陸神	1607 北向きの【ドウロクジン】
斎 斎食	1608 【トキ】にも非時にも外れる
秋 穉 穉	1609 存亡の【トキ】
吐逆	1610 転柿が【トギヤク】したよう
菟裘 菟裘	1611 【トキュウ】の地
斗牛	1612 氣、【トギユウ】を貫く
犢	1613 老牛【トク】を舐る
瀆 洗	1614 蓑を披て火を救い、【トク】を毀りて水を止む
犢	1615 刀を売り【トク】を買う
篤恭	1616 君子【トクキョウ】にして天下平らかなり
木賊 砥草	1617 【トクサ】に兎
独参湯	1618 忠臣蔵は歌舞伎の【ドクジントウ】
特石	1619 錦に【トクセキ】を包む
秃筆	1620 【トクヒツ】を呵する
疇 蝮局	1621 【トグロ】を巻く
兔徑 兔徑 兔徑	1622 大象【トケイ】に遊ばず
怒貌	1623 【ドゲイ】の石を抉るが如し
杜鵑	1624 天津橋上【トケン】の声を聞く
驚犬	1625 両虎相闘って【ドケン】其の弊を受く

斗斛	1626 【トコク】の禄
野老	1627 人屑と【トコロ】屑は投げる所はない
菟糸 菟糸 兔糸 兔糸 兔糸	1628 【トシ】女羅に付く
斗酒	1629 【トシュ】なお辞せず
屠所	1630 【トシヨ】の羊
茶薺	1631 【トセイ】は畝を同じくせず
屠蘇	1632 【トソ】は延年の仙薬
斗筲	1633 【トソウ】の人
塗炭	1634 【トタン】の苦しみ
訥	1635 君子は言に【トツ】なれども行いに敏ならんと欲す
咄咄	1636 【トツトツ】人に迫る
咄咄	1637 【トツトツ】の怪事
襜袍 縕袍	1638 【ドテラ】三尺五分月代
屠毒	1639 【トドク】の筆墨
凶南	1640 【トナン】の翼
駑馬	1641 騏驎も老いては【ドバ】に劣る
駑馬	1642 【ドバ】も十駕
駑馬	1643 【ドバ】に鞭打つ
都鄙	1644 【トヒ】に歩みを失う
妬婦	1645 老いて【トフ】の功を知る
溝	1646 【ドブ】に金を捨てるよう
枢	1647 瓦の窓、縄の【トボソ】
蕃茄	1648 【トマト】が赤くなると医者が青くなる
舳 鱸	1649 【トモ】が回る
纜	1650 出る船の【トモヅナ】を引く

屠門	1651 【トモン】を過ぎて大嚼す
響動 哄	1652 始めの囁き後の【ドヨ】めき
鳥糞 糞	1653 【トリモチ】で馬を刺す
屠竜	1654 【トリヨウ】の技
薯蕷	1655 塗り箸【トロロ】
頓	1656 鳳凰【トン】に家鴨と変ず
団亀	1657 【ドンガメ】にお月様
吞鉤 吞鉤 吞鉤 吞鉤	1658 【ドンコウ】の魚は飢えを忍ばざるを嘆く
緞子	1659 貧すれば【ドンス】の帯を売り
緞帳	1660 【ドンチョウ】芝居で花道が無い
蜻蛉 蜻蜓	1661 尻切れ【トンボ】
濟	1662 借りる八合、【ナ】す一升
絢	1663 盗人を捕らえて縄を【ナ】う
内証	1664 不断よいなりする人に【ナイショウ】のよいは無し
媒	1665 無功の賞は不義の富禍の【ナカダチ】なり
長局	1666 【ナガツボネ】の煤掃き
薙刀 長刀 眉尖刀	1667 弁慶に【ナギナタ】
擲 抛 抛	1668 骨髓【ナゲウ】つ
梨子地	1669 更に【ナシジ】の重箱
茄子 茄	1670 瓜の蔓に【ナスビ】はならぬ
鈍 岩	1671 【ナタ】を貸して山を伐られる
靡	1672 風に草【ナビ】く
生酔	1673 【ナマエ】い本性違わず
海鼠	1674 【ナマコ】を藁でつなぐ
膾 鱠 齧 壺	1675 羹に懲りて【ナマス】を吹く

生灸	1676 【ナマヤイト】の皮を剥く
訛 譌	1677 【ナマリ】は国の手形
蛞蝓	1678 【ナメクジ】に塩
檜 枹 柞	1679 松蔭の【ナラ】の木
苗代	1680 寒さひだるさ【ナワシロ】時
南柯	1681 【ナンカ】の夢
南華	1682 【ナンカ】の悔い
式	1683 賢に任ずるに【ニ】する勿れ
鳩	1684 【ニオ】の浮き巢
膠	1685 琴柱に【ニカワ】す
肉袒	1686 【ニクタン】して羊を牽く
煮染	1687 重箱に【ニシ】め
鯁 鯢	1688 【ニシン】と筍
二鼠	1689 【ニソ】藤を噛む
日昃	1690 【ニツシヨク】の労
入唐	1691 臍が【ニットウ】渡天する
二庭	1692 【ニテイ】を踏む
鮓 膠 鰓	1693 【ニベ】もない
乳狗	1694 【ニュウク】人を搏ち伏鶏狸を搏つ
人数	1695 餓鬼も【ニンズ】
忍辱	1696 【ニンニク】の袈裟
泥濘 濘	1697 提灯持ちが【ヌカルミ】へ入る
緯	1698 布は【ヌキ】から男は女から
踏	1699 天に踊り地に【ヌキアシ】す
鰻	1700 【ヌタ】の鉢の高名

射干玉 野干玉 烏玉  烏珠	1701 世は【ヌバタマ】の闇の儲け
佞	1702 佞に【ネイ】す
佞言	1703 【ネイゲン】は忠に似たり
禰宜 祢宜	1704 神は【ネギ】のはからい
猫糞	1705 【ネコババ】でしゃあしゃあまじまじ
螺子 螺旋 捻子 捩 子 捩	1706 【ネジ】が緩む
涅槃	1707 【ネハン】に入る
舐	1708 老牛犢を【ネブ】る
年劫	1709 【ネンゴウ】の兎
燃犀	1710 【ネンサイ】の見
伸	1711 【ノ】るか反るか
脳漿	1712 【ノウショウ】を絞る
囊中 囊中	1713 【ノウチュウ】の錐
囊底 囊底	1714 【ノウテイ】の智
鑿	1715 【ノミ】と言えは槌
蚤	1716 【ノミ】の夫婦
暖簾	1717 【ノレン】に腕押し
鈍間 野呂松	1718 【ノロマ】が箱を食らう
矧	1719 戦を見て矢を【ハ】ぐ
俳諧 誹諧	1720 炬燵【ハイカイ】夏将棋
肺肝	1721 【ハイカン】を摧く
貝錦	1722 萋（せい）たり■たり、是の【バイキン】を成せり
敗鼓	1723 牛・馬勃【ハイコ】の皮
敗子	1724 慈母に【ハイシ】有り
吠日	1725 【ハイジツ】の怪しみ

杯杓	1726 【ハイシャク】に勝えず
配所	1727 罪無くして【ハイショ】の月を見る
肺腑	1728 【ハイフ】を衝く
計 果 抄	1729 【ハカ】が行く
脛 胛	1730 鶴の【ハギ】も切るべからず
馬脚	1731 【バキヤク】を露す
破鏡	1732 【ハキョウ】再び照らさず
箔	1733 伽羅の仏に【ハク】を置く
魄	1734 魂を失い【ハク】を落とす
帛	1735 衣は【ハク】を重ねず
箔	1736 仏の【ハク】を剥がす
帛	1737 【ハク】を散じて亡卒の遺骸を収む
貌 猊	1738 【バク】の札
白屋	1739 【ハクオク】の士
伯牙	1740 【ハクガ】琴を破る
薄伎	1741 財を積む千万なるも【ハクギ】身に在るに如かず
麦曲	1742 【バクキョク】の英
貌 姑射	1743 【バクコヤ】の山
柏舟	1744 【ハクシュウ】の操
麦秀	1745 【バクシュウ】の嘆
陌上	1746 【ハクジョウ】の塵
白犢	1747 黒牛【ハクトク】を生む
白眉	1748 【ハクビ】最も良し
白面	1749 【ハクメン】の書生
莫邪	1750 【バクヤ】を鈍しと為し鉛刀を銛しと為す

伯叡	1751 【ハクユ】杖に泣く
伯樂	1752 千里の馬は常に有れども【ハクラク】は常には有らず
伯樂	1753 【ハクラク】の一顧
白鷺	1754 【ハクロ】は塵土の穢れを禁ぜず
嘴 髯	1755 鶻の【ハシ】
嘴 髯	1756 捨て【バシ】を突く
馬齒	1757 【バシ】徒（いたず）らに増す
麻疹 疹	1758 疱瘡は見目定め、【ハシカ】は命定め
椒	1759 【ハジカミ】の食い合わせ
薑	1760 手が【ハジカミ】ならば生姜三へぎ
榛	1761 十【ハシバミ】の九つ空
端折	1762 転んでから尻【ハシヨ】る
馬謖	1763 泣いて【バシヨク】を斬る
破窓	1764 風、【ハソウ】を射て灯火滅し易し
叩	1765 財布の底を【ハタ】く
旅籠 旅籠	1766 安い【ハタゴ】のよき馳走
撥 桴	1767 太鼓も【バチ】の当たりよう
蓮	1768 砂に黄金、泥に【ハチス】
白鶴	1769 雲中の【ハツカク】
白駒	1770 【ハツク】の隙を過ぐるが如し
白虹	1771 【ハツコウ】日を貫く
八朔	1772 昼寝は【ハツサク】まで、火燧は亥の子から
伐性	1773 【バッセイ】の斧
八艘	1774 義経の【ハツソウ】飛び
飛蝗 蝗虫	1775 米搗き【バツタ】が礼に来たよう

八斗	1776 【ハット】の才
伐氷	1777 【バツピョウ】の家
髪膚	1778 身体【ハツプ】之を父母に受く
端	1779 【ハナ】から和尚はない
端	1780 師匠の【ハナ】負け
牛麩 鼻麩	1781 【ハナヅラ】に・を通す
嚏 嚏	1782 元日に【ハナヒ】るは長命の相
埴生	1783 【ハニユウ】の宿
番番	1784 黄髪【ハハ】に謀れば、則ち過つ所なし
鉏	1785 切羽【ハバキ】する
跛鼈	1786 【ハベツ】も千里
馬勃	1787 牛・【バボツ】敗鼓の皮
鮎	1788 沖の【ハマチ】
鱧	1789 【ハモ】も一期、海老も一期
囀	1790 親、物に狂わば子は【ハヤ】すべし
薔薇 薔	1791 刺の無い【バラ】は無い
波瀾	1792 平地に【ハラン】を起こす
玻璃	1793 瑠璃も【ハリ】も照らせば光る
斑衣	1794 【ハンイ】の戯れ
反間	1795 【ハンカン】苦肉の策
万頃	1796 良田の【バンケイ】なるも日に二升を食う
播州	1797 【バンシュウ】へ行って浄瑠璃語るな
班女	1798 【ハンジョ】が扇
半鐘	1799 【ハンショウ】泥棒
蛮触	1800 【バンシヨク】の争い



万歳	1801 山【バンゼイ】を呼ぶ
半纏 裨纏	1802 はやりの【ハンテン】着ない者は馬鹿
榮特	1803 【ハンドク】が愚痴も文殊の知恵
頒白 斑白 半白	1804 朋友には相踰えず、【ハンパク】には提挈せざれ
蛮貊	1805 言忠信にして、行い篤敬ならば、【バンバク】の邦と雖も行われん
板板	1806 上帝【ハンハン】として、下民卒（ことごと）く瘡（や）む
反哺	1807 鳩に三枝の礼あり鳥に【ハンポ】の孝あり
斑猫	1808 石持の【ハンミョウ】
班門	1809 【ハンモン】斧を弄す
潘楊	1810 【ハンヨウ】の好
藩籬	1811 【ハンリ】の鷄（あん）
斑狼	1812 愁猴が手を出だし【ハンロウ】が涙
放	1813 沈香も焚かず屁も【ヒ】らず
秕 粃	1814 粟の【ヒ】有るが若し
簸	1815 箕売り笠にて【ヒ】る
婢	1816 奴は【ヒ】を見て慇懃
婢	1817 耕は当に奴に問うべく、織は当に【ヒ】に問うべし
麋	1818 【ビ】を逐うの狗は当に兔を顧みるべけんや
廂間	1819 【ヒアワイ】から日食を拝むよう
鼯鼠 鼯鼠 鼯鼠	1820 【ヒイキ】の引き倒し
稗	1821 粟とも【ヒエ】とも知らず
微瑕	1822 白璧の【ビカ】
僻耳	1823 老いの【ヒガミミ】
僻目	1824 親の欲目と他人の【ヒガメ】
匪躬	1825 【ヒキュウ】の節

比近	1826 【ヒキン】 説ばざれば修遠を務むる無かれ
曾孫	1827 ちゃっちやの【ヒコ】
飛鴻	1828 【ヒコウ】 雪泥を踏む
提 提子	1829 【ヒサゲ】 の水が湯となる
拉	1830 産の苦は青竹をも【ヒシ】 ぐ
翡翠 翡翠	1831 【ヒスイ】 は羽を以て自ら害わる
尾生	1832 【ビセイ】 の信
匪石	1833 【ヒセキ】 の心
肥瘠	1834 越人の秦人の【ヒセキ】 を視るが如し
皮癬 癬	1835 乗り合い船の【ヒゼン】 搔き
斐然	1836 【ヒゼン】 として章を成す
顰 頰	1837 【ヒソ】 みに効う
鷓 火烧	1838 【ヒタキ】 は物貰い
鏹三文	1839 【ビタサンモン】 の値うちも無い
匕箸	1840 【ヒチョ】 を失う
緋縮緬	1841 【ヒヂリメン】 虎の皮より恐ろしい
蹕	1842 出ずるに警し、入るに【ヒッ】 す
筆硯	1843 【ヒッケン】 を新たにす
匹馬	1844 【ヒツバ】 隻輪も反るなし
早 魃	1845 【ヒデリ】 に不作無し
批点	1846 【ヒテン】 を打つ
罷駑	1847 王良車に登れば馬に【ヒド】 無し
偏	1848 世挙ってこれを誉むるとも【ヒトエ】 に勸むことを加えざれ
鄙 俚	1849 【ヒナ】 に都あり
髀肉 脾肉	1850 【ヒニク】 の嘆

飛蓬	1851 【ヒホウ】 風に乗ず
蜚蓬	1852 【ヒホウ】 の問い
誹謗	1853 【ヒボウ】 の木
謬悠	1854 【ビュウユウ】 の説
馮河	1855 暴虎【ヒョウガ】 の勇
飄瓦	1856 怒気ある者も【ヒョウガ】 は咎めず
氷壺 氷壺	1857 【ヒョウコ】 の心
氷積	1858 渙然【ヒョウシヤク】 する
評定	1859 小田原【ヒョウジョウ】
平仄	1860 【ヒョウソク】 が合わない
瓢箪 瓢箪	1861 【ヒョウタン】 から駒が出る
瓢箪 瓢箪	1862 【ヒョウタン】 に釣り鐘
氷炭	1863 【ヒョウタン】 相愛す
屏風 屏風	1864 人と【ビョウブ】 は直には立たず
飄風 飄風	1865 【ヒョウフウ】 は朝を終えず、驟雨は日を終えず
渺茫	1866 往事【ビョウボウ】 として都て夢に似たり
雛	1867 呪いは【ヒヨコ】 の如くねぐらに舞い戻る
鶉	1868 渡り【ヒヨドリ】 に戻り鶉
皮裏	1869 【ヒリ】 の陽秋
鄙吝	1870 一日見ざれば【ヒリン】 生ず
比隣	1871 天涯【ヒリン】 の如し
美祿 美祿	1872 酒は天の【ビロク】
麋鹿	1873 【ビロク】 の姿
枇杷	1874 【ビワ】 黄にして医者忙しく橘黄にして医者蔵る
琵琶	1875 芸無し座頭の【ビワ】 拵え

頻伽	1876 迦陵【ビンガ】の声
牝鷄	1877 【ヒンケイ】晨す
鬢糸	1878 【ビンシ】茶烟の感
顰蹙	1879 【ヒンシュク】を買う
賓頭盧	1880 【ビンズル】ほど塗る
貧賤 貧賤	1881 【ヒンセン】の知は忘るべからず
一揃	1882 夜明けの【ピンゾロ】
牝馬	1883 【ヒンバ】の貞
彬彬	1884 文質【ヒンピン】として、然る後に君子なり
麩 麩	1885 焼き【フ】の土左衛門
亮 鳥	1886 鶴を断ちて【フ】に続く
賦	1887 槩を横たえて詩を【フ】す
阜	1888 其の【フ】に考訊して出さば則ち怨靖からん
布衣	1889 【ファイ】の友
巫医	1890 人にして恒無くんば以て【ファイ】を作すべからず
布衣	1891 【ファイ】の極
鞞 鑪 吹子	1892 【ファイゴ】の向こう面
楓	1893 【フウ】呉江に落つ
風雨震雷	1894 【フウウシンライ】は天地の御政事
風樹	1895 【フウジュ】の嘆
風塵	1896 【フウジン】の警
風草	1897 【フウソウ】の徳
風靡	1898 一世を【フウビ】する
楓葉	1899 【フウヨウ】衰えて盧橘花開く
斧鉞	1900 【フエツ】を加える

斧柯	1901 両葉去らずんば【フカ】を用うるに至る
腐芥	1902 琥珀は【フカイ】を取らず
不刊	1903 【フカン】の書
不羈	1904 【フキ】の才
鮒魚	1905 涸轍の【フギョ】
俯仰 俛仰	1906 【フギョウ】天地に愧じず
俯仰 俛仰	1907 【フギョウ】の間
斧斤	1908 【フキン】時を以て山林に入る
諷経	1909 【フギン】に立つ
伏鷄	1910 乳狗人を搏ち【フクケイ】狸を搏つ
伏寇 伏寇	1911 牆に耳あり、【フクコウ】側に在り
覆車	1912 【フクシャ】の戒め
覆舟	1913 奔車の上に仲尼無く、【フクシュウ】の下に伯夷無し
蝮蛇	1914 【フクダ】一たび手を螫せば、壯士は疾く腕を解く
覆轍	1915 【フクテツ】を踏む
腹誹 腹非	1916 【フクヒ】の法
覆輪	1917 金箔付きの上に【フクリン】掛ける
伏櫪	1918 【フクレキ】の志
鳧脛 鳧脛	1919 【フケイ】短しといえども之をつがば則ち憂えん
不繫 不繫	1920 【フケイ】の舟
斧鑿	1921 【フサク】の痕
巫山	1922 【フザン】の夢
五倍子 付子 附子	1923 【フシ】食ったよう
附耳 付耳	1924 【フジ】の言も千里に聞こゆ
斧質	1925 【フシツ】に伏す

膚受	1926 【フジュ】の懇え
負薪	1927 【フシン】の憂い
普請	1928 東海の墓【ブシン】
衾	1929 枕を扇ぎ【フスマ】を温む
浮生	1930 【フセイ】夢の若し
不屑	1931 【フセツ】の教誨
腐鼠	1932 【フソ】の嚇
富足	1933 礼儀は【フソク】に生ず
扶持	1934 子持ち二人【ブチ】
副急	1935 【フッキュウ】の涙
舞馬	1936 【ブバ】の災い
布帛	1937 善言は【フハク】よりも暖かなり
不憫 不愍	1938 憎いが余って【フビン】
樽木 扶木	1939 【フボク】の地
蜉蝣	1940 【フユウ】の一期
不予	1941 【フヨ】の色
不爛	1942 三寸【フラン】の舌
篩	1943 過って謝るに【フル】うこと勿れ
篩	1944 【フルイ】に掛ける
分陰	1945 【フンイン】を惜しむ
刎頸 刎頸	1946 【フンケイ】の交わり
刎頸 刎頸	1947 【フンケイ】の朋友
蚊子	1948 【ブンシ】、牛を咬む
蚊睫	1949 焦螟【ブンショウ】に集まる
蚊蝻 蚊蝻	1950 【ブンゼイ】山を負う

蚊蝻 蚊蚋	1951 【ブンゼイ】 膚を咬み虎狼肉を食らう
粉黛	1952 六宮の【フンタイ】 顔色なし
禪 犢鼻禪	1953 人の【フンドシ】 で相撲を取る
蚊虻	1954 【ブンボウ】 牛羊を走らす
蚊虻	1955 【ブンボウ】 の労
分憂	1956 【ブンユウ】 の寄
聘	1957 儀を畏れて【ヘイ】 を辞す
平左	1958 平氣の【ヘイザ】
并州 并州	1959 【ヘイシュウ】 の情
萍水	1960 【ヘイスイ】 相逢う
米泉	1961 【ベイセン】 の精
弊帚 敝帚	1962 家に【ヘイソウ】 有り、之を千金に享つ
瓶中	1963 【ヘイチュウ】 の氷を睹て天下の寒きを知る
丙丁	1964 【ヘイテイ】 に付す
弊履 敝履	1965 【ヘイリ】 を棄つるが如し
汨羅	1966 【ベキラ】 の鬼
霹靂	1967 青天の【ヘキレキ】
屁糞 屁屎	1968 【ヘクソ】 葛も花盛り
卷子 綜麻	1969 なりに似せて【ヘソ】 を巻く
蒂 蒂	1970 尼や沙弥や茄子の【ヘタ】 や
鼈	1971 【ベツ】 人を食わんとして却って人に食わる
竈 竈	1972 【ヘツツイ】 より女房
陰核	1973 馬に乗りても【ヘノコ】 安からず
篋 篋	1974 【ヘラ】 を使う
偏諱	1975 【ヘンキ】 を賜う

扁鵲	1976 耆婆、【ヘンジャク】でもいかぬ
扁舟	1977 一葉の【ヘンシュウ】
胼胝 胼胝	1978 【ヘンチ】の労
辺幅	1979 【ヘンプク】を修飾する
鞭辟	1980 【ベンペキ】して裏に近づく
辺烽	1981 【ヘンポウ】の急
哺	1982 一沐に三たび髪を握り、一飯に三たび【ホ】を吐く
蒲	1983 【ホ】を編む
芳	1984 【ホウ】を後世に流す
袍	1985 子と【ホウ】を同じくせん
鵬	1986 斥鴳（せきあん）が【ホウ】を笑う
貌	1987 【ボウ】には恭を思う
蚌	1988 【ボウ】を煮て珠の爛るるを知らず
貌	1989 人を取るに【ボウ】を以てす
萌 萌	1990 漸を杜じ、【ボウ】を防ぐ
布衣	1991 【ホウイ】に靴の沓
鳳逸	1992 竜蟠【ホウイツ】の士
鴝羽	1993 【ホウウ】の嗟き
望雲	1994 【ボウウン】の情
逢掖	1995 【ホウエキ】の衣
茅屋	1996 心安ければ【ボウオク】も穏やかなり、性定まれば菜根香ばし
泛駕	1997 【ホウガ】の馬
方外	1998 【ホウガイ】の友
鮑魚	1999 不善人と居るは【ホウギョ】の肆に入るが如し
反古 反故	2000 紙屋の【ホウグ】でしわくたじゃ



飽經	2001 風霜を【ホウケイ】す
忘形	2002 【ボウケイ】の交わり
蓬蒿	2003 我が輩豈是れ【ホウコウ】の人ならんや
包公	2004 【ホウコウ】が笑み
封豕	2005 【ホウシ】長蛇を為す
茅茨	2006 【ボウシ】剪らず采椽削らず
芒刺	2007 【ボウシ】背に在り
榜示	2008 上見れば【ボウジ】無し
貿首	2009 【ボウシュ】の讐
奉書	2010 【ホウショ】に炭団
望蜀	2011 【ボウシヨク】の願い
蓬箭	2012 麻矢は直く【ホウセン】は曲がれり
彭祖	2013 【ホウソ】の寿
庖瘡	2014 【ホウソウ】は見目定め、麻疹は命定め
蜂螫	2015 猛虎の猶予するは【ホウタイ】の螫を致すに若かず
庖厨 庖廚	2016 餓狼の【ホウチュウ】を守る如し
庖厨 庖廚	2017 君子は【ホウチュウ】を遠ざく
抱柱	2018 【ホウチュウ】の信
庖丁	2019 【ホウテイ】牛を解く
傍輩 朋輩	2020 【ホウバイ】の笑み敵
忘憂	2021 【ボウユウ】の物
望洋	2022 【ボウヨウ】の嘆
蓬萊 蓬萊	2023 命長ければ【ホウライ】を見る
忙裏	2024 【ボウリ】閑を偷む
彭蠡	2025 【ホウレイ】の浜には魚を以て犬に食らわしむ

部婁	2026 【ホウロウ】には松柏無し
焙烙 炮烙	2027 【ホウロク】千に槌一つ
頰冠 頰冠 頰被 頰被	2028 頭巾と見せて【ホオカム】り
解	2029 【ホグ】れを取る
鶯	2030 鶯を刻して【ボク】に類す
穆	2031 【ボク】として清風の如し
木鷄	2032 【ボクケイ】に似たり
墨守	2033 成規を【ボクシュ】す
北辰	2034 【ホクシン】その所に居て衆星之に向かう
木石	2035 人【ボクセキ】に非ず
北叟	2036 【ホクソ】笑む
木鐸	2037 社会の【ボクタク】
墨突	2038 孔席暖まらず、【ボクトツ】黔まず
神庫	2039 神の【ホクラ】も梯のままに
補苴	2040 罅漏を【ホシヨ】し、幽眇を張皇す
臍	2041 【ホゾ】を噬む
絆	2042 良驥の足を【ホダ】して責むるに千里の任を以てす
没溺	2043 深き淵に臨まざる者は【ボツデキ】の患いを知ること無し
缶 甌	2044 【ホトギ】を被って壁に向かうが如し
熱	2045 【ホトボリ】が冷める
蒲鞭	2046 【ホベン】の罰
法螺	2047 蜺千より【ホラ】貝一つ
蒲柳	2048 【ホリュウ】の質
蒲盧	2049 政は【ホロ】のごとし
法論味噌	2050 【ホロミソ】売りの夕立

賁育	2051 【ホンイク】の勇
本卦	2052 【ホンケ】還りの三つ子
奔車	2053 【ホンシャ】の上に仲尼無く、覆舟の下に伯夷無し
賁諸	2054 【ホンショ】錐刃を懐けども天下勇と為す
賁諸	2055 利の在る所皆【ホンショ】たり
畚土	2056 【ホンド】の基は高きを成す能わず
翻倒 飜倒	2057 鉄桶を【ホントウ】す
本非	2058 百服の【ホンピ】
奔命	2059 【ホンメイ】に疲れる
舞舞螺	2060 【マイマイツブリ】も一軒の主
莫作	2061 諸悪【マクサ】諸善奉行
真砂	2062 【マサゴ】の数
猿	2063 月の影取る【マシラ】
木天蓼	2064 猫に【マタタビ】
襠	2065 袴の【マチ】に雑魚たまる
睫 睫毛	2066 近くて見えぬは【マツゲ】
儘	2067 開けた【ママ】なる雑言
継子	2068 【ママコ】の腹はいつもふくれぬ
蝮	2069 懐に【マムシ】を養うが如し
磨礪 磨砺	2070 【マレイ】は当に百煉の金の如くすべし
卍 卍字	2071 利口の【マンジ】立て
蔓草	2072 【マンソウ】猶除くべからず
慢蔵	2073 【マンゾウ】は盗を誨え、治容は淫を誨う
漫漫	2074 県官【マンマン】冤（うら）み死する者半ばなり
縵縵 蔓蔓	2075 綿綿を絶たずんば【マンマン】を如何せん

箕	2076 爪で拾って【ミ】で零す
密夫	2077 盗みは貧から、【ミツプ】は栄耀から
嬰兒 緑兒	2078 【ミドリゴ】は水の泡
漲	2079 煙焰天に【ミナギ】る
蓑 蓑	2080 【ミノ】を披て火を救い、瀆を毀りて水を止む
未必	2081 【ミヒツ】の故意
未萌 未萌	2082 明者は遠く【ミボウ】に見、智者は危を無形に避く
葎	2083 【ムグラ】の宿
無患子	2084 【ムクロジ】は三年磨いても黒い
無碍 無礙	2085 六大【ムゲ】の月
無稽 無稽	2086 【ムケイ】の言は聴く勿れ
無辜	2087 【ムコ】の民
貉 貉	2088 同じ穴の【ムジナ】
襁褓	2089 生まれぬ先の【ムツキ】定め
夢寐	2090 【ムビ】にも忘れない
毋望 無望 毋妄 無妄	2091 【ムボウ】の禍
無妄 毋妄 無望 毋望	2092 【ムボウ】の福
無累	2093 【ムルイ】の人
暝	2094 以て【メイ】すべし
鳴鶴	2095 【メイカク】陰に在り其の子之に和す
暝眩	2096 若し藥【メイゲン】せざればその疾癒えず
明駝	2097 【メイダ】千里の足
鳴鐸	2098 【メイタク】は声を以て自ら毀る
酩酊	2099 大きに【メイテイ】の常灯明
明哲	2100 【メイテツ】身を保つ

冥冥 瞑瞑	2101 【メイメイ】の裡
螟蛉	2102 【メイレイ】子有れば螟蛉（から）之を負う
鍍 鍍金	2103 【メッキ】が剥げる
鍍 鍍金	2104 真金は【メッキ】せず
滅頂	2105 【メツチョウ】の災い
面牆 面牆	2106 【メンショウ】の譏り
綿蛮	2107 【メンバン】たる黄鳥丘隅に止まる
面誉	2108 【メンヨ】は忠にあらず
揉	2109 片手で錐は【モ】めぬ
蒙	2110 【モウ】を発き落を振るうが如し
盲亀	2111 【モウキ】の浮木
罔極	2112 【モウキョク】の恩
毛氈	2113 【モウセン】を被る
妄想	2114 【モウゾウ】の縄
孟浪	2115 【モウロウ】の言
痘瘡 痘 疱 皰	2116 【モガサ】靨に見える
虎落	2117 【モガリ】を逆様
沐	2118 新たに【モク】する者は必ず冠を弾く
艾	2119 七年の病に三年の【モグサ】を求む
目眚 目眚	2120 【モクシ】尽く裂く
目睫	2121 【モクショウ】の間
默然	2122 【モクネン】和尚もお経読む
木爨子	2123 【モクレンジ】は白くならず
扨	2124 擦ったの【モジ】ったの
默	2125 君命は【モダ】し難し

齋	2126 寇に兵を藉し盗に糧を【モタラ】す
縛	2127 身上が【モツ】れる
勿怪 物怪	2128 【モツケ】の幸い
畚	2129 煽てと【モッコ】には乗り易い
沐猴	2130 【モッコウ】にして冠す
木梗	2131 【モッコウ】の患い
蛻	2132 【モヌケ】の殻
紅絹 紅	2133 後家の見せかけ数珠は奥【モミ】
舫	2134 【モヤ】いを入れる
銛	2135 鯨に【モリ】
脆	2136 瑠璃は【モロ】し
紋体	2137 【モンタイ】が無い
翻筋斗 翻筋斗	2138 【モンドリ】を打つ
文盲	2139 負け惜しみは一生【モンモウ】
門閭	2140 于公【モンリョ】を高大にす
灸 灼	2141 【ヤイト】箸にて目を突く
夜臥	2142 大廈千間【ヤガ】八尺
夜鶴	2143 【ヤカク】子を思う
野鶴	2144 【ヤカク】鶏群に在り
薬缶	2145 大きい【ヤカン】は沸きが遅い
野干	2146 獅子吼ゆれば【ヤカン】脳裂く
扼 搯	2147 喉を【ヤク】して背を拊つ
薬石	2148 【ヤクセキ】効無し
薬石	2149 【ヤクセキ】の言
益体	2150 【ヤクタイ】も無い

馬陸	2151 【ヤスデ】、臭亀を笑う
鑪	2152 【ヤスリ】と薬の飲み違い
弥猛	2153 【ヤタケ】にはやる
野雉	2154 家鶏を賤しみて【ヤチ】を愛す
野猪	2155 【ヤチヨ】にして介するもの
冶容	2156 慢蔵は盗を誨え、【ヤヨウ】は淫を誨う
槍衾 鎗衾 鎗衾	2157 【ヤリブスマ】を作る
蜻蜓	2158 鼻毛で【ヤンマ】を釣る
瑜	2159 瑾を懐き【ユ】を握る
維摩	2160 【ユイマ】の一黙
揖	2161 門を開きて盗みに【ユウ】す
莠	2162 苗の【ユウ】有るが若し
友于	2163 【ユウウ】の情
牖下	2164 【ユウカ】に死す
莠言	2165 好言は口よりし、【ユウゲン】も口よりす
牖戸	2166 【ユウコ】を綯繆す
宥坐	2167 【ユウザ】の器
有司	2168 籩豆（へんとう）の事は、則ち【ユウシ】存す
遊刃 游刃	2169 【ユウジン】余地有り
郵船	2170 渡口の【ユウセン】は風静まって出ず
牖中	2171 【ユウチュウ】に日を窺う
油幕	2172 【ユウバク】の遊び
熊羆	2173 【ユウヒ】の夢
熊羆	2174 【ユウヒ】の士
右臂	2175 咽喉【ユウヒ】の地

祐筆 右筆	2176 物得書かねば【ユウヒツ】置く
幽眇	2177 罅漏を補苴し、【ユウビョウ】を張皇す
尤物	2178 【ユウブツ】人を移す
優孟	2179 【ユウモウ】の衣冠
游竜	2180 車は流水の如く馬は【ユウリョウ】の如し
縁 所縁	2181 草の【ユカリ】
輸写	2182 心腹を【ユシャ】す
弭 弓弭 弓筈	2183 【ユハズ】の調
撚 綖	2184 【ヨ】りを戻す
攀	2185 竜に【ヨ】じ驥に附く
宵拵	2186 小舟の【ヨイゴシラ】え
宵枕	2187 曉知らずの【ヨイマクラ】
俑	2188 【ヨウ】を作る
擁	2189 箒を【ヨウ】し門に迎う
癰	2190 千鈞の弩を以て【ヨウ】を潰す
鵠	2191 千雀万鳩【ヨウ】と仇を為す
踊	2192 履（く）賤しく【ヨウ】貴し
養花	2193 【ヨウカ】の天
羊裘	2194 【ヨウキュウ】、釣を垂る
鷹鳩	2195 【ヨウキュウ】変せず
鷹犬	2196 【ヨウケン】の才
庸行	2197 聖読して【ヨウコウ】す
陽侯	2198 【ヨウコウ】の波
雍齒	2199 【ヨウシ】が功を先とす
蠅子 蠅子	2200 【ヨウシ】驥尾に付く



楊枝 楊子	2201 重箱の隅を【ヨウジ】でほじくる
揚州	2202 【ヨウシュウ】の夢
鷹鷲	2203 【ヨウシュウ】山を以て卑しと為して巢を其の上に増す
陽春	2204 脚の有る【ヨウシュン】
楊震	2205 【ヨウシン】の四知
瑤台 瑤台	2206 群玉【ヨウダイ】の仙境
陽台	2207 【ヨウダイ】の夢
瑤池 瑤池	2208 【ヨウチ】に咲きし芙蓉
窈窕	2209 【ヨウチョウ】たる淑女は君子の好逑
窈窕	2210 女は華丹の【ヨウチョウ】を乱すを悪む
瘍疔	2211 【ヨウチョウ】百日
楊梅	2212 深山木の中の【ヨウバイ】
楊宝	2213 【ヨウホウ】黄雀の病を扶く
養由	2214 【ヨウユウ】に弓を言う
瓔珞	2215 天人に【ヨウラク】取らしたような
楊柳	2216 【ヨウリュウ】の風に吹かるるが如し
余殃	2217 積悪の家には必ず【ヨオウ】有り
過	2218 目を【ヨギ】れば忘れず
弋	2219 【ヨク】して宿を射ず
薏苡	2220 【ヨクイ】の讒
浴沂	2221 【ヨクキ】の楽しみ
欲炙	2222 【ヨクシャ】の色
余慶	2223 積善の家には必ず【ヨケイ】有り
捩	2224 腹の皮を【ヨジ】る
予且	2225 【ヨシヨ】の患い

余喘	2226 【ヨゼン】を保つ
与太	2227 【ヨタ】を飛ばす
弥立	2228 身の毛が【ヨダ】つ
涎	2229 商いは牛の【ヨダレ】
余桃	2230 【ヨトウ】の罪
輿馬	2231 【ヨバ】を仮る者は足を勞せずして千里を致す
夜尿	2232 【ヨバリ】垂れ嫌うて夜糞垂れ貫うた
黄泉路	2233 【ヨミジ】の障り
夜半	2234 【ヨワ】の嵐
疊	2235 餅（へい）の罄（つ）くるは維【ライ】の恥
来者	2236 【ライシャ】は追うべし
雷霆	2237 目に秋毫の末を察すれば耳に【ライテイ】の声を聞かず
羅宇	2238 【ラウ】仕替えも職の中
羅綺	2239 【ラキ】千箱、一暖に過ぎず
烙印	2240 【ラクイン】を押される
洛陽	2241 【ラクヨウ】の紙価を高める
埒	2242 【ラチ】が明く
辣韭 辣韭 薤	2243 【ラッキョウ】の皮を剥くよう
獵虎 獺虎 海獺 海獵	2244 【ラッコ】の皮
臍次 臍次 臍次	2245 【ラッシ】も無い
喇叭	2246 法螺と【ラッパ】は大きく吹け
羅浮	2247 【ラフ】の夢
欄干 欄杆 欄桿 闌干	2248 【ランカン】に共に倚ると雖も山色を看ること同じからず
蘭摧	2249 【ランサイ】玉折を為すも蕭敷艾榮をは作さじ
蘭麝	2250 【ランジャ】の室に入る者は自ら香ばし

藍田	2251 【ランデン】玉を生ず
乱鬢	2252 髪結いの【ランビン】
濫妨 乱妨	2253 【ランボウ】の取り残し
鸞鳳	2254 枳棘は【ランポウ】の棲む所に非ず
卵翼	2255 【ランヨク】の恩
爛爛	2256 【ランラン】として巖下の電の如し
驪	2257 【リ】を採って珠を獲
梨園	2258 【リエン】の弟子
梨花	2259 【リカ】一枝春雨を帯ぶ
籬下	2260 人の【リカ】に寄る
犁牛	2261 【リギユウ】の喩え
六合	2262 【リクゴウ】、風を同じうす
陸処	2263 吞舟の魚も【リクショ】すれば則ち螻蟻に制せらる
六尺	2264 一杯の土未だ乾かず、【リクセキ】の孤安にか在る
六蔽	2265 六言の【リクヘイ】
里耳 俚耳	2266 大声、【リジ】に入らず
利生	2267 罰も【リショウ】もある
犁星	2268 河、角を射れば夜作に堪え、【リセイ】没すれば水骨を生ず
履霜	2269 【リソウ】の戒め
慄慄	2270 戦戦【リツリツ】日に一日を慎め
李白	2271 【リハク】一斗詩百篇
離披	2272 花を賞するに慎みて【リヒ】に至る勿れ
溜飲	2273 【リュウイン】が下がる
流矢	2274 白刃前に交われれば【リュウシ】を顧みず
隆車	2275 螻蛄が斧を怒らせて【リュウシャ】に向かう

竜蛇	2276 深山大沢【リュウジャ】を生ず
柳絮	2277 【リュウジョ】の才
流翠 流翠	2278 【リュウスイ】滴らんと欲す
流星光底	2279 【リュウセイコウテイ】長蛇を逸す
隆準	2280 【リュウセツ】にして竜顔
柳眉	2281 【リュウビ】を逆立てる
竜馬	2282 【リュウメ】の躓き
閭	2283 慶者堂に在り、弔者【リョ】に在り
陵	2284 日に【リョウ】し月に替す
凌雲 陵雲	2285 【リョウウン】の志
蓼花	2286 紫燕は柳樹の枝に戯れ白鷺は【リョウカ】の蔭に遊ぶ
良驥	2287 【リョウキ】の足を絆して責むるに千里の任を以てす
獵禽	2288 【リョウキン】尽きて走狗煮らるる
燎原	2289 【リョウゲン】の火
燎原	2290 猛火【リョウゲン】より甚だし
良賈	2291 【リョウコ】は深く蔵して虚しきが如し
兩鮫 兩蛟	2292 一淵には【リョウコウ】ならず
陵谷	2293 【リョウコク】の変
兩驂	2294 【リョウサン】舞うが如し
聊爾	2295 男が七度追い出すまでは【リョウジ】に出ぬもの
綾袖	2296 【リョウシュウ】能く舞う
凌霄	2297 【リョウシヨウ】の志
梁上	2298 【リョウジョウ】の君子
梁塵	2299 【リョウジン】を動かす
兩錯	2300 権は【リョウソ】せず政は二門せず

陵遲	2301 山は【リョウチ】を以て故に能く高し
蓼虫	2302 【リョウチュウ】辛を忘る
梁柱	2303 蠹啄みて【リョウチュウ】を剖く
陵土	2304 【リョウド】未だ乾かず
梁木	2305 泰山頽れ【リョウボク】折る
呂翁	2306 【リョオウ】の枕
緑陰 緑蔭	2307 【リョクイン】幽草、花時に勝る
閭巷	2308 【リョコウ】の人
里閭	2309 鼠穴を治めて【リリョ】を壊る
驪竜	2310 【リリョウ】領下の珠
離婁	2311 【リロウ】が明
麟角	2312 学ぶ者は牛毛の如く、成る者は【リンカク】の如し
輪奐	2313 【リンカン】の美
悋気	2314 【リンキ】は女の七つ道具
綸言	2315 【リンゲン】汗の如し
鱗甲	2316 胸中の【リンコウ】
臨濟	2317 【リンザイ】の喝徳山の棒
吝嗇	2318 儉約と【リンショク】は水仙と葱
林藪 林藪	2319 刀下の鳥【リンソウ】に交わる
麟喩	2320 【リンユ】の独覚
琳琅 琳瑯	2321 【リンロウ】、目に満つ
累土	2322 九層の台は【ルイド】より起こる
累卵	2323 【ルイラン】の危うき
蠡	2324 【レイ】を以て海を測る
厲	2325 深ければ【レイ】し、浅ければ掲す

醴	2326 小人の交わりは甘きこと【レイ】の若し
厲	2327 婦に長舌あるは維【レイ】の階
礼楽刑政	2328 【レイガクケイセイ】その極は一なり
囿圉	2329 倉廩実ちて【レイギョ】空し
鴿原	2330 【レイゲン】の情
黎元	2331 【レイゲン】の資
囿圉	2332 草、【レイゴ】に満つ
藜羹	2333 【レイコウ】を食らう者は大牢の滋味を知らず
靈犀	2334 【レイサイ】一点通ず
荔枝	2335 【レイシ】を捻ったよう
醴酒	2336 【レイシュ】設けず
醴水	2337 【レイスイ】の交わり
靈蛇	2338 【レイダ】の珠
麗沢	2339 【レイタク】の契り
令名	2340 士に争う友あれば身【レイメイ】を離れず
櫪	2341 老驥【レキ】に伏すとも志千里に在り
櫪	2342 驥も【レキ】に伏す
憐愛	2343 飛鳥人に依れば自ずから【レンアイ】を加う
連鷄	2344 【レンケイ】俱に棲に止まる能わず
輦轂	2345 【レンコク】の下
連城	2346 【レンジョウ】の壁
廉恥	2347 飢寒身に至る時は【レンチ】を顧みず
連理	2348 【レンリ】の枕
櫓 櫓	2349 【ロ】三年に棹八年
櫓 櫓	2350 帆掛け船に【ロ】を押す

驢	2351 【ロ】 鳴き犬吠ゆ
廬	2352 蝸牛の【ロ】
廬	2353 【ロ】 に当たる
隴	2354 【ロウ】 を得て蜀を望む
聾	2355 痴ならず【ロウ】 ならざれば姑公と成らず
蝮	2356 流水腐らず、戸枢【ロウ】 せず
牢	2357 【ロウ】 として破るべからず
臍 臍 臍	2358 【ロウ】 寿の二つを積む
漏甕	2359 【ロウオウ】 を奉じて焦釜に沃ぐ
弄瓦	2360 【ロウガ】 の喜び
老槐	2361 【ロウカイ】 悲しむ
癆咳 勞咳	2362 楊弓場の【ロウガイ】
癆咳 勞咳	2363 【ロウガイ】 病みの肉の落ちるよう
螻蟻	2364 千丈の堤も【ロウギ】 の穴を以て潰ゆ
螻蟻	2365 吞舟の魚も水を失えば則ち【ロウギ】 に制せらる
螻蟻	2366 【ロウギ】 の誠
臘月	2367 【ロウゲツ】 の扇子
牢乎	2368 【ロウコ】 として抜くべからず
隴山	2369 【ロウザン】 雲暗し
弄璋	2370 【ロウショウ】 の喜び
籠鳥 籠鳥	2371 【ロウチョウ】 雲を恋う
廊廟	2372 【ロウビョウ】 の器
老蚌	2373 【ロウボウ】 珠を生ず
魯衛	2374 政は【ロエイ】 の如し
櫓 櫓 櫓	2375 【ロカイ】 の立たぬ海もなし

廬橘	2376 楓葉衰えて【ロキツ】花開く
魯魚	2377 【ロギョ】の誤り
陸地	2378 【ロクジ】に舟漕ぐ
鹿鳴	2379 【ロクメイ】の宴
轆轤 釣	2380 【ロクロ】首の反吐
魯縞	2381 強弩の末【ロコウ】に入る能わず
廬山	2382 【ロザン】の真面目
驢子	2383 詩思は灞橋（はきょう）風雪の中、【ロシ】の上に在り
驢事	2384 【ロジ】未だ去らざるに馬事到来す
廬生	2385 【ロセイ】の夢
魯般	2386 【ロハン】が雲
櫓臍 艫臍	2387 大船を動かす【ロベソ】は一尺に足らず
魯陽	2388 【ロヨウ】の戈
矮子	2389 【ワイシ】の看戲
罫	2390 狩人【ワナ】にかかる